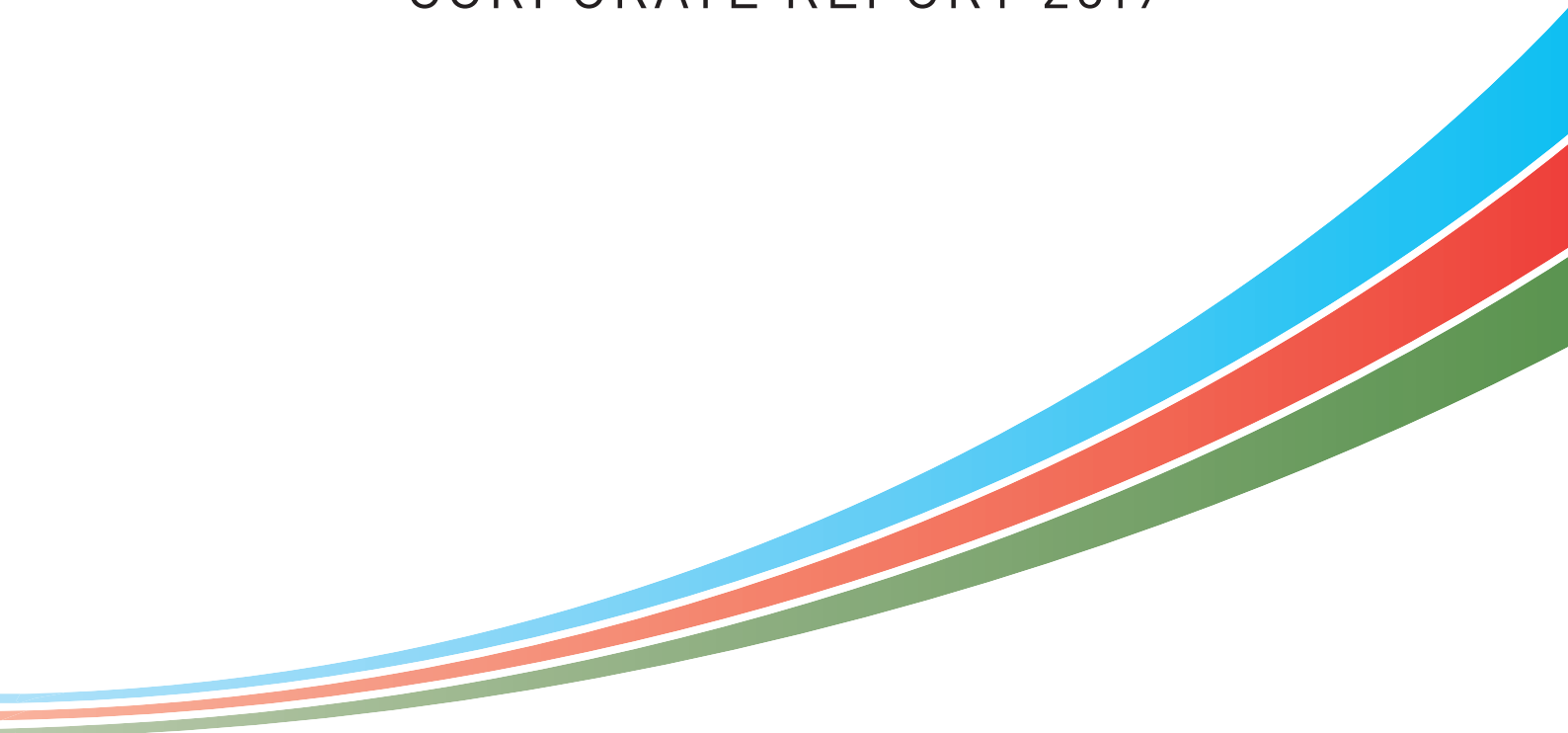


CORPORATE REPORT 2019



この手で守る自然と資源

Contents

会社概要 01

アサヒホールディングスを知る

トップメッセージ 02

アサヒウェイ 03

第8次中期経営計画(2018-2020年度) 04

アサヒホールディングスの歩み 06

アサヒホールディングスの価値創造 08

アサヒホールディングスのSDGs 09

アサヒホールディングスの事業領域

3つの事業領域 10

事業紹介 12

貴金属事業 12

環境保全事業 18

ライフ&ヘルス事業 22

ESGの取り組み

G 企業統治

コーポレート・ガバナンス 26

リスクマネジメント 28

役員紹介 29

E 環境

アサヒホールディングスの環境貢献 30

環境マネジメント 32

地球温暖化防止への取り組み 33

S 社会

健康経営・ワークライフバランス 34

安全な職場づくり 34

ダイバーシティ・インクルージョン 35

人材育成 35

ステークホルダーとのコミュニケーション 36

グループ会社体系図 39

財務・非財務ハイライト 40

グループシンボルマークについて

スパイラルをモチーフにしたシンボルマークは事業特徴である循環による環境保全を追求していくという企業姿勢や継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動していくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。



アサヒホールディングス株式会社

創業：1952年7月
 設立：2009年4月
 資本金：7,790百万円
 代表取締役：寺山 満春(会長) 東浦 知哉(社長)
 本社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 TEL:078-333-5633 FAX:078-333-5681
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1833 FAX:03-6270-1859
 従業員数(連結)：2,042名(2019年3月31日現在)
 U R L : <https://www.asahiholdings.com/>



神戸本社



東京本社

アサヒプリテック株式会社

事業内容：貴金属リサイクルおよび産業廃棄物処理
 代表取締役：中西 広幸
 本社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 TEL:078-333-5600 FAX:078-333-5681
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1820 FAX:03-6270-1825
 U R L : <https://www.asahipretec.com/>

国内拠点

研究所：テクノセンター(神戸)
 工場：埼玉、長野、尼崎、神戸、テクノセンター、愛媛、北九州、北九州ひびき、福岡
 営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、長野、静岡、名古屋、北陸、阪神、神戸、岡山、広島、四国、北九州、福岡、鹿児島、沖縄

関係会社

ASAHI G&S SDN. BHD.(マレーシア) 韓国アサヒプリテック株式会社

アサヒライフ&ヘルス株式会社

事業内容：生活および健康関連機器・設備の製造・販売・施工
 代表取締役：大槻 利幸
 本社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6895-1870 FAX:03-6270-1839
 U R L : <https://www.asahilh.com/>

関係会社

株式会社フジ医療器 株式会社インターセントラル
 継永工業株式会社 Fujiiryoki, Inc.(米国)

ジャパンウェイスト株式会社

事業内容：産業廃棄物処理およびその他の環境保全
 代表取締役：奥村 恵一
 本社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6270-1828 FAX:03-6270-1839
 U R L : <https://www.japanwaste.co.jp/>

国内拠点

埼玉、横浜、湘南、神戸西

関係会社

JWケミテック株式会社 日本ケミテックロジテム株式会社
 JWガラスリサイクル株式会社 株式会社太陽化学
 富士炉材株式会社

アサヒアメリカホールディングス株式会社

事業内容：北米金・銀精錬
 代表取締役：東浦 知哉
 本社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サビアタワー11F
 TEL:03-6895-1900 FAX:03-6270-1859

関係会社

Asahi Refining USA Inc. Asahi Refining Canada Ltd.
 Asahi Refining Florida Inc.

(2019年4月1日現在)

【編集方針】
 本レポートは、アサヒホールディングス株式会社の事業の全体像や考え方を中心に、事業を通じて社会的課題にどう立ち向かい、どのような価値を生み出していくのかを、広く深く、皆さまにご理解いただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。また、当社グループの具体的な事業内容や取り組みについても紹介することで、会社案内としての役割も兼ね備えています。

【対象期間】
 2018年4月1日～2019年3月31日

【対象組織】
 原則として、当社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。

【数値とグラフに関して】
 記載の数値は、億円未満については四捨五入をしているため、個々の数値と合計が一致しない場合があります。
 2016年度よりIFRSを適用しており、各項目名は基本的にIFRS適用後の表記としています。
 また、前年の2015年度よりIFRS基準での数値にて記載しています。

【将来見直しに関する注意事項】
 本レポートには、当社グループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見直し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって大きく異なる可能性があります。

トップメッセージ

第8次中期経営計画の初年度である2018年度は、初年度の連結ベース営業利益として目標に掲げていた140億円を超える結果となり、2年連続して過去最高の業績となりました。

2019年2月、貴金属事業の新たな事業領域である金貨やコインなどを製造するミント事業を精錬事業と併せて経営する、米国フロリダの新会社が当社グループに加わりました。2018年4月、環境保全事業セグメントの主力事業である廃棄物焼却分野において、新型焼却炉が鹿児島県で稼働しました。これらは、中期経営計画の基本方針「次代を支える新たな事業基盤の構築」の実現です。

中期経営計画では「無形資本の充実」を掲げています。「無形資本」の主たる部分を占める「人的資本」への投資は、従来から広範囲且つ多角的な制度をきめ細かく実施してきました。具体的には、「リフレッシュホリデー」「インターバル勤務」「フレキシブル勤務」「育児・介護短時間勤務と休暇」「高度健康診断」「職場の小集団活動」「選抜派遣型プログラム等の各種の研修」「自己申告」「社員意識調査」「多面評価」「内部通報」等々の制度です。昨年度は、これらの制度の充実や運用の更なる進化を実践し、「成果主義」と「公平・公正な評価」と共に「社員の満足度追求」を目指しました。

2018年5月、世界各地の社員約1,400名が一堂に会した社員総会を開催しました。その席上で新たに「SDGs大賞設置」の発表をしました。当社は3つの事業領域を持ち、そのいずれもが地球規模の社会的課題「地球のサステナビリティの解決」に直接的な貢献をしています。また、これまでも個人やグループ単位で、業務とは関わりなくボランティア活動をしている例が多くありました。それらの活動の更なる推進を図る目的で、この大賞制度を設置しました。2021年5月の全社員が出席する社員総会において、良い事例を発表し、優秀な個人やグループに対して「SDGs大賞」として表彰します。

2019年度は世界的に政治や経済の不安定な状態が継続すると思われます。当社グループもその影響を受け、事業環境は厳しい局面を迎える可能性があります。しかし「革新と挑戦」の精神で、全社一丸となって事業環境の変化を克服しながら、事業の成長とSDGsへの貢献を両立したいと願っています。

引き続き、アサヒホールディングスグループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月
代表取締役会長（CEO）

手山 謙吾



アサヒウェイ

“この手で守る自然と資源”

アサヒホールディングスグループは、わたしたちの信条、企業として大事にすること、社員として守ること、行動指針などを、グループ社員が共有すべき価値「アサヒウェイ」として定めています。取締役および経営幹部社員は、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的とした「アサヒウェイ」を率先して実践します。

わたしたちの信条

わたしたちは、
限りある資源を大切にし
地球の環境を保全し
人々の健康をサポートします。

わたしたちが社員として心がけること

革新と挑戦
安全最優先
高い品質の保持
素早い報告（特に悪い情報こそ早く報告）
信頼と絆

わたしたちが企業として大事にすること

ステークホルダーとの協調

株主・顧客・取引先・社員・地域社会・自然環境に配慮し、信頼が得られる活動を実践する。

攻めと守りのバランスがとれたコーポレートガバナンス

意思決定の透明性を確保し
リスクを適切に管理しながら
成長戦略や事業改革を果敢に推進する。

利益なくして成長なし

企業グループ全体の成長と利益を通して
長期的な株主価値の向上を実現する。

信頼されるコーポレートブランド

クリーンな企業グループであると広く認知され
長く信頼されるブランドを維持する。

さまざまなリスクへの対応

職場の日常の安全性の確保や業務事故の防止を徹底し
各種災害への備えを確立する。

社員のモラル向上

社員の仕事と生活全体との調和を重視し
働く環境や労働条件を継続的に向上する。

強い使命感と高い倫理観

社員一人ひとりが仕事に誇りを持ち
幹部社員は強い使命感と高い倫理観を持つ組織とする。

グッド・ピープル・カンパニーの継承

善なる社員を長期に亘って大事にする。
善なる社員とは、利己主義的ではなく
自他の共栄と事業の発展を願う社員である。

アサヒホールディングスグループ 10の規則

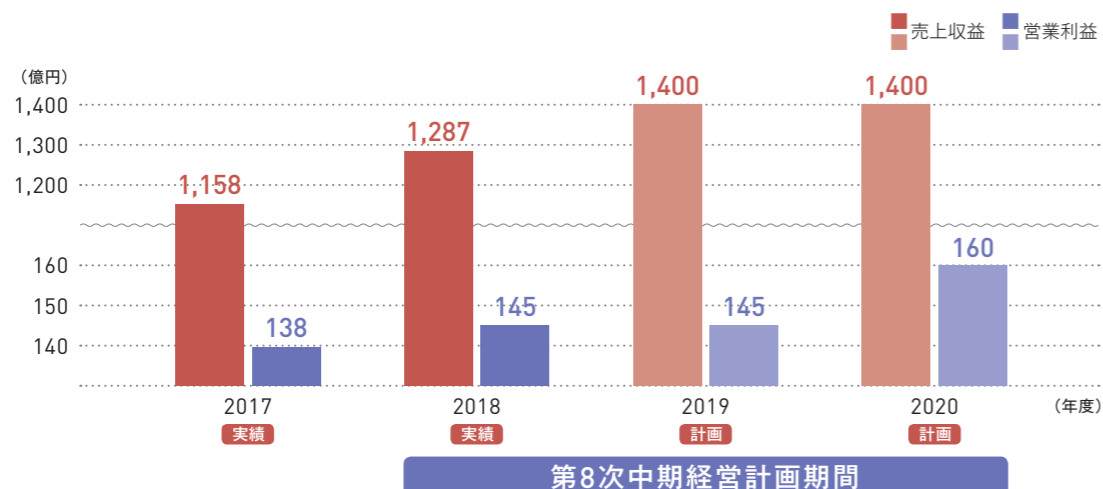
- 第一則 いかなる法令や規範にも違反しない
- 第二則 社会通念や自己の良心に反することを行わない
- 第三則 年齢・性別・国籍・人種・宗教などに基づく差別を行わない
- 第四則 業務に関連した場所で政治活動や宗教活動を行わない
- 第五則 お客様に不誠実な対応をしない
- 第六則 取引先の決定において公平な競争や最適な選定を妨げない
- 第七則 業務上知りえた情報を外部に漏洩しない
- 第八則 個人的な利得につながる食事や贈答品を提供しないし受け取らない
- 第九則 個人や自ら所属する組織より全体最適を優先する
- 第十則 現場・現物・現実を重視する

第8次中期経営計画(2018-2020年度)

スローガン

独創性と成長を追求するグローバル企業へ

2018年度実績、業績推移



第8次中期経営計画の初年度を終えて

次の3つの観点から、第8次中期経営計画の方針に沿った最新の進捗事例を紹介します。

1つ目は「人的資本の拡充」です。

外部教育機関を活用した「選抜型教育派遣プログラム」や「公募型MBA取得プログラム」を開始し、経営人材の育成に努めています。また、国際的な事業や新規の事業に積極的に人材を投入し、グローバルに活躍できる人材の開発を進めています。

2つ目は「RPAを活用した業務改革」です。

各部署から業務改革のアイデアを集め、その中から費用対効果が高いものを優先的に推進しています。その具体的な成果として、RPAを活用した「データ集計の自動化」や「WEB情報収集の自動化」を2019年度中に実現できる予定です。

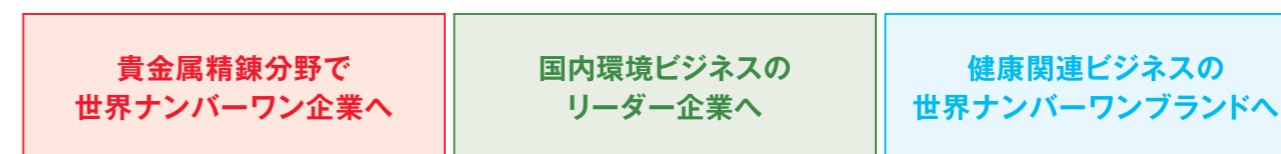
3つ目は「SDGsの積極推進」です。

「アサヒホールディングスSDGs重点テーマ」として6つのテーマを選定しました。その内容を9ページに記載しております。

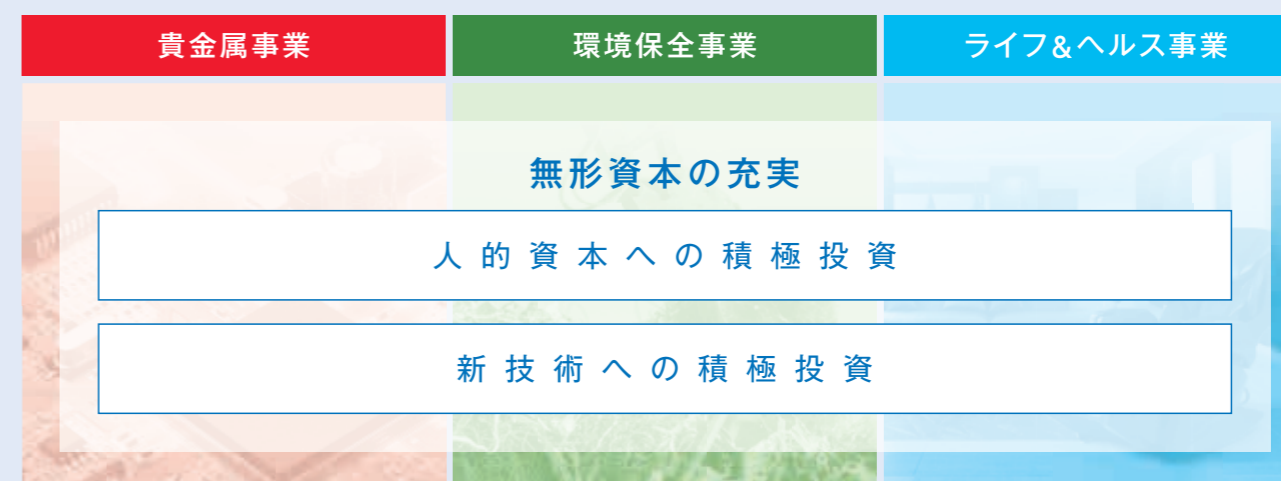
第8次中期経営計画の目標の達成に向けて全力で取り組んでまいります。今後ともなにとぞ変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2019年6月
代表取締役社長 東浦 知哉

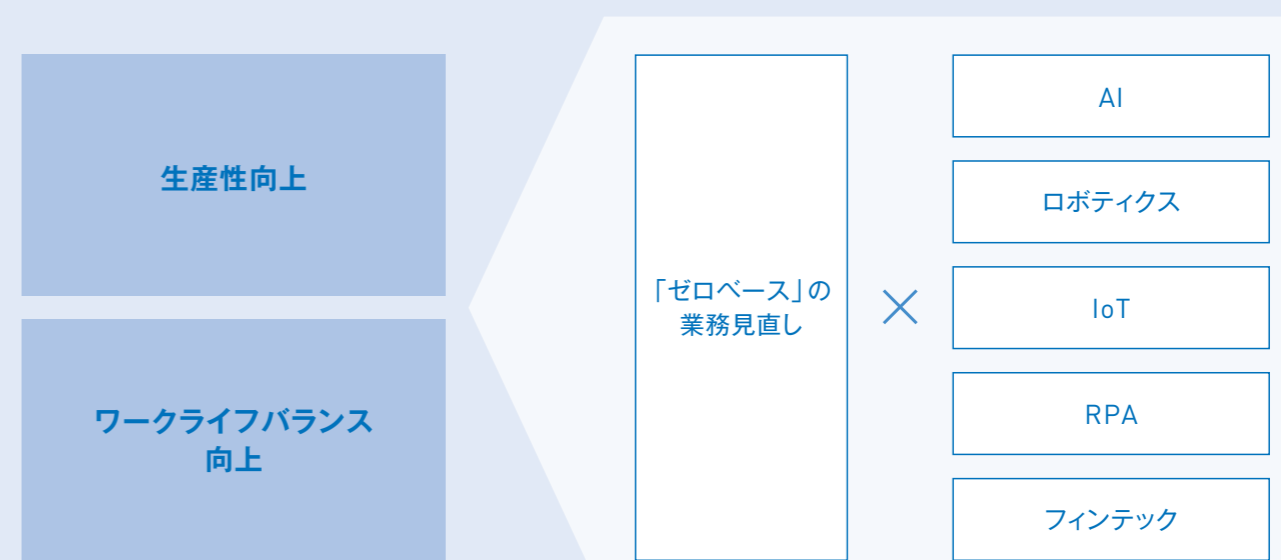
基本方針



1. 次代を支える新たな事業基盤の構築



2. 情報処理技術を活かした生産性向上と働き方改革



3. グループ全社員によるアサヒウェイの共有

アサヒホールディングスの歩み

1952	大阪市城東区に「朝日化学研究所」を創立	1999	店頭市場に株式公開
1964	株式会社へ組織変更	2000	東京証券取引所第二部に株式上場
1974	福岡営業所開設 以降全国各地へ営業所を展開	2002	東京証券取引所第一部に株式上場
1978	神戸市東灘区に本社社屋を竣工	2009	持株会社「アサヒホールディングス株式会社」を設立
1997	「アサヒプリテック株式会社」に社名変更		
1998	本社機能を神戸市中央区に移転 研究開発施設テクノセンターを神戸市西区に開設		

2012	アサヒウェイを制定 東京証券取引所ESG銘柄に選定される
2015	監査等委員会設置会社へ移行 指名委員会と報酬委員会を設置 業績連動型株式報酬制度を導入
2016	IFRS（国際会計基準）を適用
2017	新株式発行等による増資を実施
2018	アサヒウェイを改訂



第1幕 1952年 創業～

第2幕 1999年 株式公開～

第3幕 2012年 新たな発展へ～

貴金属事業

1952	写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
1975	小型電解回収装置「プラタ」を開発
1982	デンタル分野からの 貴金属リサイクル事業を開始
1984	メッキ分野からの 貴金属リサイクル事業を開始
1986	電子材料・宝飾分野からの 貴金属リサイクル事業を開始
	小型電解回収装置「ジバング」を開発
1994	ASAHI G&S SDN. BHD.を 設立（マレーシア）
1998	歯科用合金製造を開始

2003	自動車触媒事業を開始
2006	韓国アサヒプリテック（株）を設立
2011	Eスクラップ事業を開始 精密洗浄事業を開始



環境保全事業

1972	写真廃液の無害化処理施設を 神戸工場に設置
1975	神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得 （有害物を含む写真廃液無害化処理）
1978	環境計量証明事業所の登録
1990	写真廃液以外の 環境保全事業を開始



2004	日本ケミテック（株）がグループに加わる
2006	（株）太陽化学がグループに加わる
2007	アサヒプリテック北九州事業所を設置
2008	ジャパンウェイスト（株）を設立 富士炉材（株）がグループに加わる
2009	JWガラスリサイクル（株）が グループに加わる
2010	ジャパンウェイスト横浜事業所を設置 エコマックス（株）がグループに加わる

2015	英Johnson Matthey社から 北米（米国・カナダ）の金・銀精錬事業を買収し、 Asahi Refining USA Inc.と Asahi Refining Canada Ltd. を設立
2019	Asahi Refining Florida Inc.を設立

2017	日本ケミテックと エコマックスを ジャパンウェイストに統合
------	-------------------------------------

グループ企業の
地域拠点を
統合（12拠点）

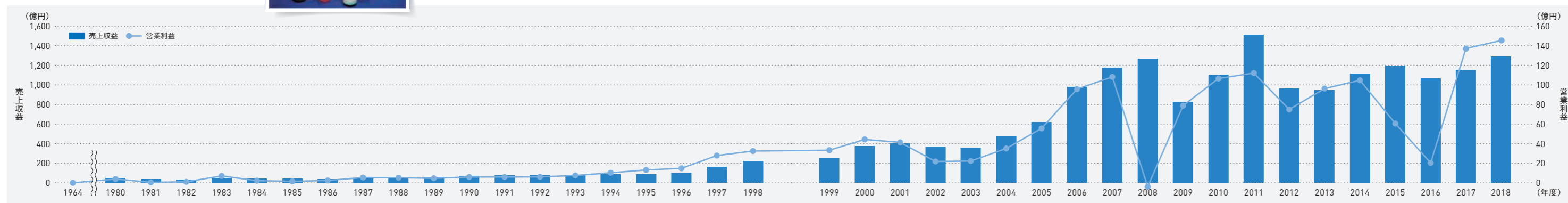
ライフ＆ヘルス事業

2012	（株）インターセントラル がグループに加わる
2014	紘永工業（株）がグループに加わる （株）フジ医療器がグループに加わる
2018	ライフ＆ヘルス事業を新たなセグメントとする アサヒライフ＆ヘルス（株）を設立 Fujiiryoki, Inc.（フジ医療器の米国子会社） を設立

歴史の中で育んだアサヒの強み

- 変化への対応力
- 事業を再生する経営力
- 業界をリードする「独自の技術」
- 信頼されるアサヒブランド
- モラルの高い社員集団
- グローバルに広がるネットワーク
- ステークホルダーとの良好な関係
- 健全な財務体質

業績推移



アサヒホールディングスの価値創造

3つの事業領域

わたしたちは、限りある資源を大切に、地球の環境を保全し、人々の健康をサポートします。



価値創造を支える8つのファクター

「革新と挑戦」の歴史の中で育んだ強み

変化への対応力

事業環境の変化を敏感に察知し、柔軟な発想と果敢な行動力で、創業以来、未知の事業分野にチャレンジしてきました。ライフサイクルが衰退期を迎えた事業分野からは素早く撤退し、新たな事業分野では独創性のあるビジネスモデルを築いて、成長を維持し続けています。

業界をリードする「独自の技術」

高度な分析力と高い効率で貴金属を回収する技術、さまざまな産業廃棄物を適正に処理する技術、顧客のニーズを的確に捉えて商品開発を進める技術を誇ります。不断の研究開発により、各事業分野で“独自の技術”を磨き続けています。

モラルの高い社員集団

全社共通の価値観である“アサヒウェイ”を共有し“信頼と絆”を大切に、“革新と挑戦”のマインドに満ちた社員が成長を担ってきました。多様な人材を受け入れ、社員の健康・安全に最大限配慮し、働く環境を整える等積極的に人材に投資し、モラルの高い社員集団を形成し続けています。

ステークホルダーとの良好な関係

ステークホルダーとの対話を大切にしています。投資家との対話を積極的に行い、顧客や取引先の声に耳を傾け、ガバナンスの強化、商品・サービスの開発に活かしています。社員はもとより地域との信頼関係を大切に、長期的な企業価値の向上に取り組んでいます。

事業を再生する経営力

過去20年間で、20社以上の会社をM&Aでグループに取り込み、経営改善を進めてきました。ほとんどすべての会社がグループ入りする前よりも業績を伸ばしています。事業環境に合った柔軟な経営力によって、日本国内外の関係会社での業績向上を進めています。

信頼されるアサヒブランド

当社グループの金・銀・パラジウム・プラチナはグッド・デリバリー・パーとしての認定を受け、確かな品質が世界で高く評価されています。すべての事業において、クオリティの高い製品とサービスを提供し続けることで、信頼されるアサヒブランドを築いてまいります。

グローバルに広がるネットワーク

1994年マレーシアに現地法人を設立して以降、韓国・中国・台湾などアジア各地に進出しました。2015年には北米の精錬事業をM&Aにより取得し、対象顧客は北米をはじめ世界各国に広がっています。2019年にはフロリダに新拠点を立ち上げました。

健全な財務体質

M&Aや積極的な設備投資に機動的に対応できるよう、財務の健全性を確保しながら成長してきました。1999年に店頭公開、2002年に東証一部に上場、2017年に公募増資を行い、資本の充実をはかり、未来の成長を支える財務体質を整えています。

アサヒホールディングスのSDGs

この手で守る自然と資源



アサヒホールディングスSDGsの考え方

SDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)とは、2015年に国連で採択された経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題への取り組みで、企業を含む社会全体で取り組むことが求められています。当社グループでは、SDGsで定められた17のゴールの中から事業を通じて以下のゴール達成に取り組めます。

アサヒホールディングスのSDGs重点テーマ特定プロセス

STEP 1 SDGs推進の開始	部門横断の「SDGs推進チーム」を編成し、SDGsの理解・検討を開始
STEP 2 事業とSDGsの関連性確認	各事業とSDGsの17のゴール・169のテーマの関連性を網羅的に確認し、チャンスとリスクの両側面を整理
STEP 3 重点テーマ・KPI案の検討	関連性の高いものについて各部門責任者と協議を実施し、2030年までの重点テーマおよびKPIについてSDGs推進チームにて案を作成
STEP 4 SDGs重点テーマの決定	案を基に取締役全員によるディスカッションを行い、当社が取り組む重点テーマを決定

SDGs重点テーマ

1 貴金属リサイクルの拡大 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属リサイクルをグローバルに拡大・推進します。 ▶ P30	4 CO₂排出量の削減 各拠点での省エネ活動や次世代カーへの切替え、CO ₂ 低排出電力プランへの切替え等を通じて、グループ全体でCO ₂ 排出量の削減に取り組めます。 ▶ P31、P33
2 人・社会・環境にやさしい貴金属供給 紛争鉱物を含まない原材料や貴金属含有スクラップから生産される人権や環境に配慮した貴金属製品の供給によって、持続可能な社会の発展に貢献します。 ▶ P14	5 人材活躍の基盤充実 働き方改革・健康経営・ダイバーシティ推進等により、多様な人材が活躍できる基盤を充実させて、働きがいの向上に努めます。 ▶ P34、P35
3 廃棄物リサイクルの拡大 廃棄物処理のエキスパートとして廃棄物リサイクルの拡大に努め、持続可能な循環型社会の実現に取り組めます。 ▶ P31	6 SDGs活動の奨励・支援 個人・グループによるボランティア活動等、本業以外でSDGsに貢献する活動を「アサヒホールディングスSDGs活動」として奨励・支援します。 ▶ P38

3つの事業領域

〈わたしたちは、限りある資源を大切にし、地球の環境を保全し、人々の健康をサポートします。〉

貴金属事業

Precious Metals

P.12~17

社会的課題

- 貴金属資源の枯渇
- 採掘時の環境破壊
- 採掘に関わる人権問題、労働問題
- マネーロンダリング、テロ資金供与リスク

など

強み

- 卓越した貴金属リサイクル・精錬技術
- 国際評価に基づく透明性の高い調達と管理体制
- アジア・北米へのグローバルな事業展開

お客さま・パートナー

- 電子部品メーカー
- 歯科医院・技工所
- 宝飾品製造メーカー
- 触媒メーカー
- 自動車解体業
- 鉱山会社

アサヒの提供価値

貴金属製品

現代のモノづくりに欠かせない貴金属をリサイクルすることで、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



SDGs貢献



環境保全事業

Environmental Preservation

P.18~21

- 有害廃棄物による汚染
- 陸上・海洋の生態系への影響
- 水資源の汚染

など

- 多種多様な廃棄物に対応した高度で幅広い処理技術
- 全国をカバーするグループネットワークとライセンス

- 官公庁
- 教育機関
- 医療機関
- 各種メーカー
- 研究所

産業廃棄物の適正処理・リサイクル

多種多様な廃棄物の適正処理・リサイクルを行うことで、循環型社会の実現に貢献しています。



ライフ&ヘルス事業

Life and Health

P.22~25

- 主要国における高齢者人口の増加
- 生活習慣病リスクの増加
- 気候変動による災害リスクの増加

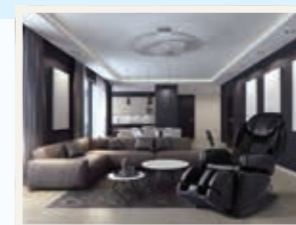
など

- 健康関連機器メーカーのバイオニアとしての商品開発力
- 快適で安心な空間を創り出す技術力と現場力

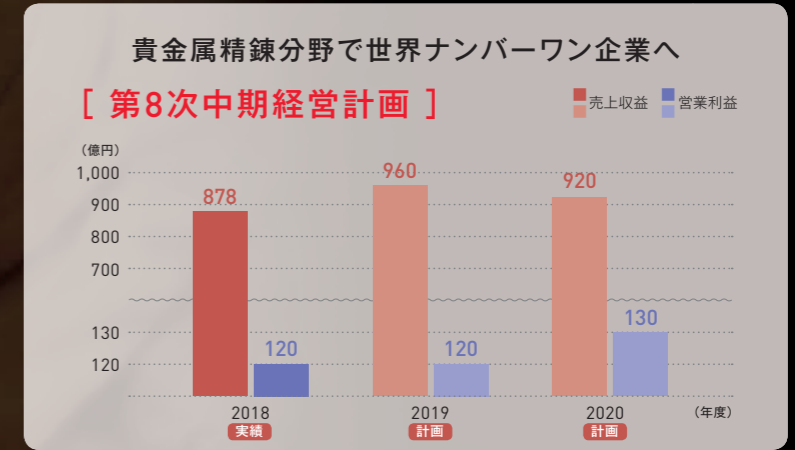
- 個人
- 健康関連施設
- オフィスビル
- 建設業
- 設計事務所

各種健康機器、空調設備、防災設備

快適な生活と健康を維持する機器・設備を提供することで、健康志向の高まりなど社会のニーズに応えています。



わたしたちは、さまざまな分野から発生する貴金属含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。



Eスクラップ

金 銀 パラジウム



パソコン、スマホや家電製品に使われている電子基板には、金・銀・パラジウムなどが含まれています。わたしたちは、使用済みの製品に含まれる電子基板や製造工程で排出される端材を回収し、粉碎・選別などのプロセスを経て、貴金属リサイクルを行っています。精確なサンプリング・高度な分析技術も強みです。

触媒

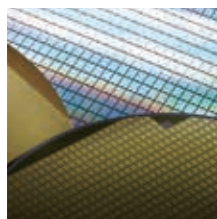
パラジウム プラチナ ロジウム



自動車には排気ガス中の有害物を無害化するために触媒が取り付けられており、これら触媒にはパラジウムやプラチナなどの貴金属が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒、化学触媒などからの貴金属やレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

精密洗浄

金 銀 パラジウム プラチナ



電子部品や半導体の製造プロセスで使用される装置はその各部品を定期的に精密洗浄することで品質の確保に努めています。わたしたちは、お客さまからそれらの部品をお預かりし、部品に付着した貴金属の剥離・回収を行っています。回収された貴金属は材料としての返却も行っています。

デンタル

金 銀 パラジウム プラチナ



歯の治療にて使用されるクラウンやインレーなどの補綴物は金銀パラジウム合金が主流ですが、種類によりそれぞれの貴金属の含有率は異なります。それらを歯科医院や歯科技工所などのお客さまからお預かりし、リサイクルを行っています。回収・分析・報告まで一元管理する独自のシステムで、高い価値還元を実現しています。

表面処理

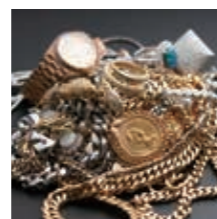
金 銀 パラジウム



貴金属メッキによる表面処理は耐食性や電気伝導性に優れているため、工業分野から装飾分野にいたるまでさまざまな場面で使われています。わたしたちは、独自に開発した電解式貴金属回収装置を活用して、メッキ液等に残る貴金属を回収し、再資源化しています。お客さまのご要望によって貴金属化成品としての返却も行っています。

宝飾

金 銀 パラジウム プラチナ



不要となった貴金属ジュエリーや装飾品、製造過程のあらゆる工程で発生する貴金属の加工くずを、買取業者や製造・加工業者より回収しリサイクルを行っています。精確な分析に加え、品質の高い貴金属製品を提供しています。製造・加工業者のお客さまへは原材料としての返却も行っています。

事業を通じた社会的課題の解決

貴金属事業を
取り巻く社会的課題

- 貴金属資源の枯渇
- 採掘時の環境破壊
- 採掘に関わる人権問題、労働問題
- マネーロンダリング、テロ資金供与リスク など



SDGs貢献



貴金属リサイクルにより消費を生産に変換し、廃棄物ではなく貴金属資源に再生



高効率・高品質な貴金属リサイクル技術の更なる向上を通して、産業の持続可能性向上に貢献



採掘を伴わない貴金属リサイクルを拡大することにより、陸上生態系、森林などの陸上資源の保全に貢献



責任ある貴金属管理と透明性の高い調達により、平和で包摂的な社会を促進



有害物質流出を伴わない貴金属リサイクルで水利用の持続可能性に貢献



紛争地域等の高リスク地域における人権侵害や児童労働等の根絶に寄与



CO₂排出の少ないリサイクル資源の供給で気候変動防止に寄与



他社との協業により高いサステナビリティに貢献

貴金属の回収・リサイクルのフロー

回収先の事業フィールドにより異なる性状や混合物を伴ったリサイクル原料に対して、最も効率的な回収を可能とする貴金属の回収専用工場を日本ならびにアジアで展開しています。また、貴金属・レアメタルの種類に応じた最適な方法で効率よく精製する設備をフル活用し、お客さまのニーズに的確に応えています。



研究開発体制



独自の研究開発を追求する「テクノセンター」

「貴金属のリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めています。その中枢が神戸ハイテクパーク内にある「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会に更なる貢献をしていきます。

研究開発

常にニーズを先取りし、新技術の開発と蓄積された要素技術の応用を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- 貴金属・レアメタルの分離・精製技術
- 環境保全・再資源化技術
- 貴金属成形加工技術

精製技術

リサイクル原料処理に有効な湿式貴金属精製技術に加え、北米で実施しているプライマリー原料処理に有効な乾式貴金属精製技術の開発を行っています。湿式・乾式の両精製技術を進化・融合させることによって、あらゆる原料に対応できる効果的な貴金属精製技術を確立しています。

剥離技術

電子部品や半導体の製造で使用する部材・治具などの表面に付着した貴金属を回収するために、部材・治具を損傷することなく、安全かつ確実に貴金属を化学剥離および物理剥離する技術を開発しています。

分析

当社グループの分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客さまの信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- 新規分析技術の開発
- 各工場・営業所分析グループの技術指導
- 貴金属製品や歯科用合金の品質分析
- 工場排水などの環境分析
- 環境計量証明事業

分析技術

お客さまとの取引を正確かつ迅速に行うことを目的として、X線や誘導結合プラズマ発光分析(ICP)を用いた分析技術を開発しています。Asahi Refiningも含めた貴金属分析の高度化を図っています。

エンジニアリング

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内外の拠点における各設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- 既存設備の維持管理・メンテナンス
- 顧客先への貴金属回収設備設置・維持管理
- 設備のIoT・ロボティクス化支援



SDGs重点テーマ

人・社会・環境にやさしい貴金属供給

あらゆる産業において欠かせない存在である貴金属は、産出国など採掘における人権や労働環境の問題、採掘時の環境への悪影響などが懸念され、貴金属の調達や供給を行う事業者は、それら社会問題が助長されないように配慮することが求められています。わたしたちが供給する金や銀は、LBMA※1ガイドラインに基づく監査に合格した「コンフリクトフリー」の貴金属です。紛争、人身売買などの非人道的行為やマネーロンダリング、テロ活動などの不正行為の活動資金となりうるような貴金属は取り扱っていないことを意味します。また、日本国内やアジアを中心に生産している「リサイクル由来」の貴金属は環境へのインパクトが小さいことから、その価値が評価されています。そのような貴金属製品の供給によって、持続可能な社会の発展に貢献します。

アサヒブリテック、Asahi Refiningで製造する純度99.99%以上の金・銀はLBMAのグッド・デリバリー・バーに、アサヒブリテックの純度99.95%以上のプラチナ・パラジウムはLPPM※2のグッド・デリバリー・バーに認定されています。厳正な審査に合格したブランドとして、国内外で高い評価を得ています。

※1 LBMA:ロンドン地金市場協会(The London Bullion Market Association)
 ※2 LPPM:ロンドンプラチナ・パラジウム市場(The London Platinum & Palladium Market)



グローバル展開

わたしたちは、貴金属事業において、1994年からアジア拠点展開を進めています。デンタル業界やエレクトロニクス業界を中心とした貴金属リサイクル事業を、日本で培った技術と現地の市場特性にあわせたビジネスモデルにより展開し、事業を拡大してきました。

さらに、2015年3月に北米精錬事業 (Asahi Refining) がグループに参加したことで、事業エリアを北米にも拡大しています。



(2019年3月31日現在)

北米精錬事業

アサヒアメリカホールディングス傘下のAsahi Refining (USA、Canada、Florida)では、米国およびカナダにおいて鉱山由来の金・銀の精錬事業を行っており、精錬規模は世界トップレベルを誇ります。鉱山会社から入荷される金・銀の原材料は、日本国内やアジアで取り扱う原材料とは貴金属の含有率、不純物の成分、入荷量の規模が大きく異なります。それぞれの原材料に対応するため、北米では主に高温で溶かして貴金属を分離する乾式処理を採用しています。一方、日本国内やアジアでは、水溶液中に溶かしてから貴金属を抽出する湿式処理を採用しています。



Asahi Refining Florida Inc. 設立

2019年1月14日付でAsahi Refining Floridaを設立し、金・銀の精錬と製品加工を主な事業とするRepublic Metals Corporationとその子会社のRepublic Carbon Companyの資産買収を行いました。北米精錬事業は3拠点体制となり、規模も世界トップレベルとなります。ミント事業(デザイン性の高いコインやバーの製造)への足掛かりとし、ますますの発展を図ります。

アサヒアメリカホールディングス(株)



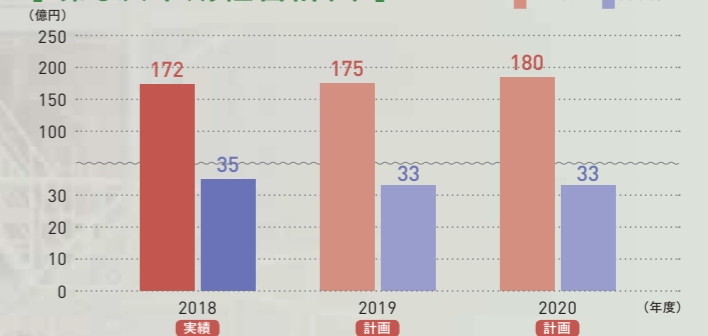
グループ各社が、長年それぞれの分野で培ってきた独自の技術を通じた各種廃棄物の無害化や適正処理を行うことで、お客さまの多様なニーズにお応えしています。わたしたちは廃棄物処理のエキスパートとして、持続可能な社会の実現・地球環境問題の解決に貢献します。

事業領域

官公庁	教育機関	病院・ 医院など
研究機関	ガラス・ サッシ メーカー	化学薬品 メーカー
分析 事務所	プラント メーカー	その他 各種 メーカー

国内環境ビジネスのリーダー企業へ

[第8次中期経営計画]



廃試薬



教育機関や研究施設などで不要となった薬品を回収しています。薬品は回収容器が適正であることを確認しながら1本ずつ梱包します。ラベルが読めないなどの内容不明物は分析を行い、処理方法を確定させてから適正処理を行っています。処理の難しい少量多品種な廃棄物にも対応しています。

廃油・汚泥



工場などから出る廃油は分析結果をもとに最適な混合・成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥は成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。マテリアルリサイクル品としての品質維持管理にも努めています。

ガラス



ガラス・サッシメーカーや自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収したガラスくずは自社工場で選別粉碎後、高品位のガラスカレットに再生します。ガラスカレットはメーカーなどに販売し、窓ガラスや各種ガラス瓶、または住宅断熱材の原料として再利用されています。

廃木材



建築物の解体現場などでは大量の廃木材が発生します。それらの廃木材を回収し粉碎します。粉碎後の木材チップはバイオマス発電用の燃料として利用されたり、パーティクルボード(加熱圧縮した板材)の原材料として再利用されています。

耐火レンガ



ガラスの製造炉や窯、焼却炉などには耐火物としてレンガが使用されています。そのような設備の解体や定期修繕工事の際に発生する廃耐火レンガを回収し、精緻な分別を行っています。リサイクル可能なものは路盤材や耐火レンガとして再利用されています。

廃酸・廃アルカリ・汚泥(無機・有機)



廃酸・廃アルカリ・汚泥は、広範な業種から発生し、性状も無機・有機と多様です。バキューム車で回収された廃液は、中和・脱水工程を経たあと、生物処理され下水に放流されます。残渣の汚泥は精錬原料、堆肥原料等にも再資源化されます。

事業を通じた社会的課題の解決

環境保全事業を取り巻く社会的課題

- 有害廃棄物による汚染
- 陸上・海洋の生態系への影響
- 水資源の汚染 など



SDGs貢献



12 つくる責任 つかう責任
廃棄物のリサイクルや無害化処理を通じて、持続可能な社会を実現



14 海の豊かさを守ろう
廃液や廃プラスチックなどを適正処理することにより海洋汚染を防止



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
各種廃棄物の更なる資源利用効率向上の観点から技術革新を推進し、地球の持続可能性向上に貢献



6 安全な水とトイレを世界中に
廃酸や廃アルカリなどの無害化処理によって、水資源の持続可能性を確保



15 陸の豊かさを守ろう
廃棄物の無害化処理による陸上環境の汚染防止、リサイクル推進による最終処分場の延命



11 住み続けられるまちづくりを
廃棄物の適正管理を通じて、持続可能な都市および人間居住を実現



13 気候変動に具体的な対策を
廃棄物発電導入等のCO₂削減推進により、気候変動防止に寄与



17 持続可能な開発のためのパートナーシップを強化
他社との協業により高いサステナビリティに貢献

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努め各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客さまのニーズに迅速にお応えします。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制を構築しています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術によって、環境分野における最適なソリューションを提供します。

グループ各社のネットワーク



当社グループの取得ライセンス (2019年3月31日現在)

産業廃棄物収集運搬業許可	すべての都道府県・政令市
産業廃棄物処分業許可	12都道府県8政令市
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可	すべての都道府県・政令市
特別管理産業廃棄物処分業許可	10都道府県7政令市
優良認定処理業認定*	アサヒプリテック：すべての都道府県・政令市 ジャパンウェイスト：22都道府県4政令市

*2011年4月に廃棄物処理法が改正され、優良産廃処理業者認定制度が創設されました。事業の実施に関する能力や実績など、より厳しい基準に適合する業者を都道府県・政令都市が認定する制度です。グループ全体で、優良産廃処理業者認定の取得を進め、お客さまが安心して委託できる体制を整えています。

廃棄物リサイクルの工程

収集運搬 → 中間処理

- **産業廃棄物**
廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、廃プラスチックなど18種類
- **特別管理産業廃棄物**
特定有害物質を含む廃酸、廃アルカリ、廃油、汚泥、感染性廃棄物など17種類
- **中和**
- **焼却**
- **凝集沈殿**
- **脱水**
- **シアン分解**
- **油水分離**
- **中和・混合**
- **選別・圧縮・破碎**
- **混練**
- **コンクリート固化化**
- **ばい焼**
- **発酵堆肥化**
- **分級**



ジャパンウェイスト横浜工場 廃油リサイクル設備



アサヒプリテック北九州工場 焼却設備

リサイクル

埋立

卓越した技術でさまざまな処理を実現

特定有害廃酸・廃アルカリ・廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理を行っています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明な廃試薬についても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。

特別管理産業廃棄物への対応も可能な安全・衛生的な焼却処理

焼却処理設備は各機器の自動化による集中コントロールで省力化が図られています。また、医療系廃棄物は、専用の自動供給ラインで炉内に投入され、安全で衛生的に処理されます。固形状のものから液状の産業廃棄物まで、多種多様な廃棄物を効率よく確実に処理します。

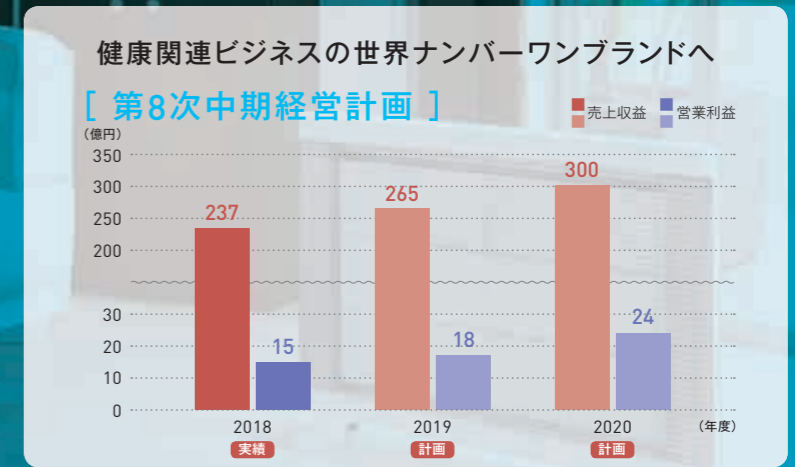
廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。

有害物のコンクリート固化化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、ばい塵、汚泥や有害物(ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類等)を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出しないようにコンクリート固化化(不溶化)処理をしています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。

アサヒライフ&ヘルス傘下の3社のネットワークにより、
快適生活と健康を維持する機器
および設備等を提供いたします。
事業を通じて人々の健康志向の高まりや
高齢化社会に対するニーズに応えます。



株式会社フジ医療器

2014年7月グループ加入
創 業：1954年
設 立：1965年4月
資 本 金：3億円
事 業 内 容：健康・美容機器の製造、販売、輸出入
本社所在地：〒540-0011
大阪府大阪市中央区農人橋1丁目1番22号大江ビル14階



サイバーリラックス AS-2000

株式会社インターセントラル

2012年7月グループ加入
創 業：1974年
設 立：1974年10月
資 本 金：1億5,375万円
事 業 内 容：放射冷暖房システムの設計・施工、電気暖房器製造・販売
本社所在地：〒020-0616
岩手県滝沢市木賊川417番地1



施工事例

みんなの森 ぎふメディアコスモス
photo by KAI NAKAMURA

紘永工業株式会社

2014年3月グループ加入
創 業：1978年6月
設 立：1988年8月
資 本 金：3,000万円
事 業 内 容：防災・空調・衛生設備の設計・施工・保守
本社所在地：〒244-0812
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町191番地2号



施工事例

慶應義塾大学病院新病院棟(1号館)

(2019年4月1日現在)

事業を通じた社会的課題の解決

ライフ&ヘルス事業を
取り巻く社会的課題

- 主要国における高齢者人口の増加
- 生活習慣病リスクの増加
- 気候変動による災害リスクの増加 など



SDGs貢献



健康関連製品の開発・製造・普及によって、病気の予防・健康増進に貢献



省エネや防災に関する研究開発への投資を通じて技術開発や改良を促進し、レジリエントなインフラを実現



防災設備の設計・施工などにより、災害に強いまちづくりに貢献



防災設備や省エネ設備の設計・施工によって、気候変動の影響による災害に対する強靭性を向上



製品の企画・設計の工夫によるライフサイクル全体での化学物質や廃棄物の排出減に貢献



他社との協業により高いサステナビリティに貢献

これまで培ってきた技術を活かし、広く社会のニーズに応えた商品を展開しています。

フジ医療器

世界初の量産型マッサージチェアが機械遺産に認定されるなど、フジ医療器は世界のマッサージチェアを先導してきました。研究開発・製造・営業など、各部門のプロフェッショナルたちが、日々研究を重ね、情報を集め、新たな商品開発へと結びつけています。お客さまのニーズをいち早く捉え商品企画へとフィードバックする体制で、これからもお客さまの思いに応えていきます。



フジ医療器が1954年に世界で初めて量産化したマッサージチェア第1号が2014年8月に「機械遺産」に認定されました。

主な取扱い商品ラインアップ



マッサージチェア

創業以来、事業の原点として大切に育んできたマッサージチェア。高機能な王道モデルからコンパクトでコストパフォーマンスに優れたモデルまで、多種多様なマッサージチェアを揃えています。



小型マッサージャー

椅子やソファの上に敷いて手軽に使えるシート型マッサージ器や、疲れやすい足をケアするため、足裏から太ももまできめ細かいマッサージを行う、多機能なフットマッサージャーを展開しています。



アルカリイオン整水器

飲み水に・お料理に・お掃除に。水は、私たちの生活に欠かせません。心地よく、すこやかな毎日を過ごすために、アルカリイオン整水器がそのお手伝いをいたします。



補聴器

高度なデジタル音声処理技術と優れたデザインで、聞き取りやすく快適に装着できる補聴器を、幅広く取り扱っています。



治療機器

神経痛や肩こり、筋肉の疲れなどに悩む多くの方々のために、「超短波治療器」「電位治療器」など、各種家庭用治療機器をラインアップしています。



フィットネス機器

自宅で楽しみながら、トレーニングやコンディショニングできるユーザーニーズに対応したフィットネス機器を提供しています。

2019 新製品情報

英知の結集 AIマッサージ始まる
Cyber Relax マッサージチェア AS-2000

お客さまと向き合いながら65年間培った英知と新たに開発したAI技術を融合。マッサージを知り尽くした専門メーカーだからこそ実現できた多種多様なマッサージで、一人ひとり異なる疲れをトータルにケアします。



インターセントラル

インターセントラルでは、各種電気暖房器の製造販売、空調システムの設計施工を通して、皆さまに快適な居住空間を提供しています。今日では健康・安全への意識の高まりから、快適で人にやさしく、同時にクリーンで省エネ性も備えた地球にやさしい製品であることが求められています。空調の可能性を追求し、快適な空間づくりを目指してチャレンジし続けます。

電気暖房器

効率的で省エネな空調設備を担う企業として、公共施設、商業施設を含め、さまざまな建築物に多種多様な暖房機器類を提供しています。



輻射式遠赤外線ヒーター
「サンヒート」



自然対流式パネル型ヒーター
「パネルヒーター」



遠赤外線ヒーター
「ルッチョラ」



遠赤外線ヒーター
「マイヒートセラフィ」

放射冷暖房システム



天井放射冷暖房システム



床放射冷暖房システム

天井・床の放射冷暖房システムは、冷温水と空気を併用し、天井面・床面全体の冷却・加熱により、空間に放射面をつくり出すことで心地よい温度と静けさを実現した快適な空間づくりのために生まれた空調方式です。天井放射冷暖房システムは医療現場やオフィスに、また床放射冷暖房システムは商業施設、庁舎等のエントランスロビーや、図書館、美術館・博物館など多数に採用されています。

絨永工業

創業以来40年にわたり、防災システム・建築設備の設計・施工の実績を積み重ねてきました。高度な設計技術と深い現場経験、そして広汎なエンジニアリングノウハウを擁するアドバンテージであらゆるテーマに応じたベストプランをスピーディーに提案し、これからも都市の安全と暮らしの安心に貢献していきます。

消防設備点検



消防用設備は、消防法により点検と点検結果の報告が義務付けられています。専任スタッフが責任を持って対応します。

スプリンクラー工事



消防法改正による福祉施設・病院への設備工事から新築工事まで、あらゆるスプリンクラー工事に対応します。

消防設備工事



消防設備点検の不具合修繕、既存建物の回収・リニューアル等の消防設備工事にも迅速に対応します。

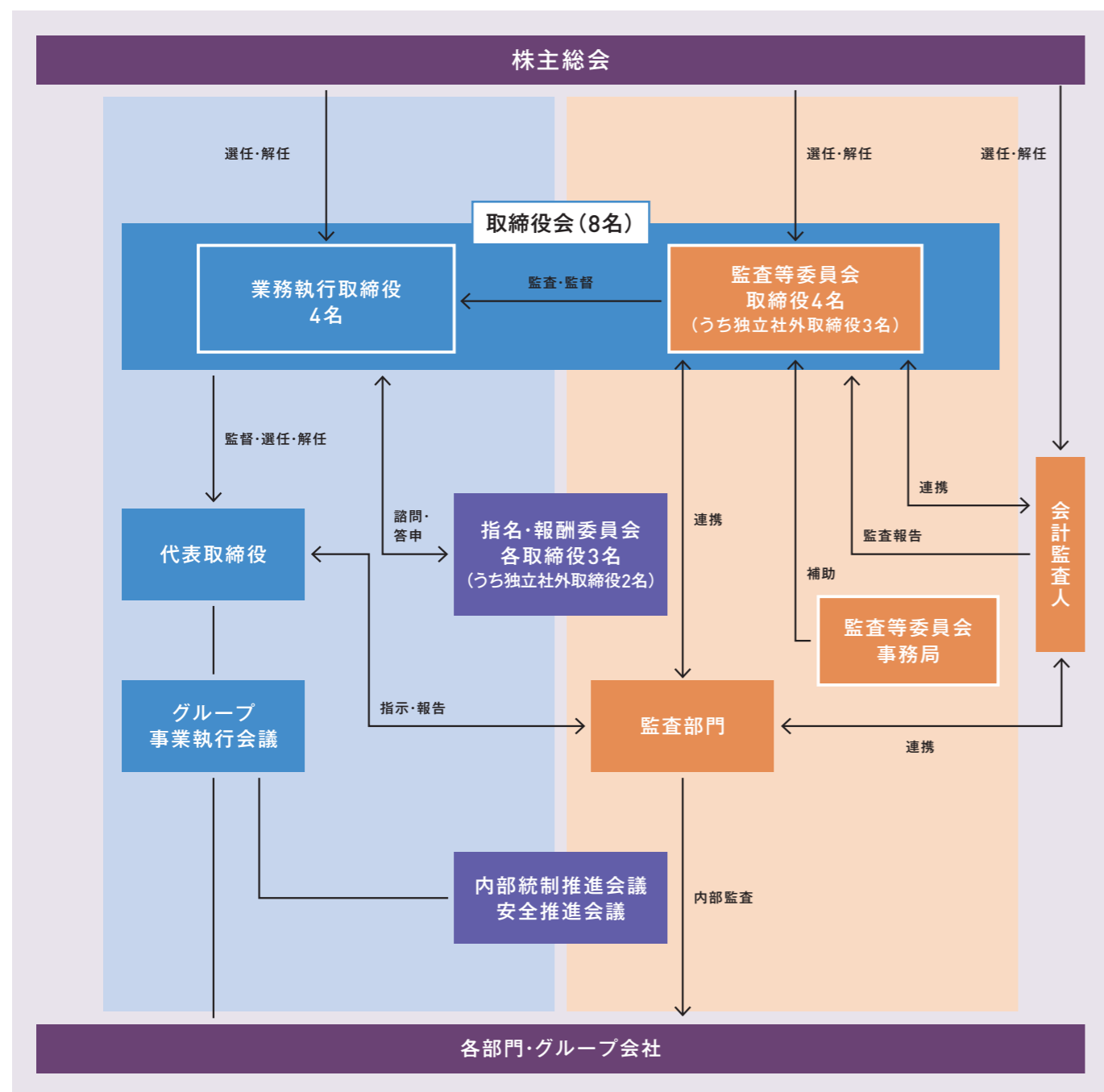
コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについての基本的な考え

コーポレート・ガバナンスを確立し有効に機能させることは、企業の社会的責任であるとともに、経営の効率性や透明性を高め持続的な企業価値向上に資するものです。

当社グループは、株主・取引先・社員・地域社会等さまざまなステークホルダーからの信頼に応えるコーポレート・ガバナンスを構築します。上場企業としての社会的使命と責任を果たすとともに、コンプライアンスを重視しつつ経営環境の変化に迅速に対応できる「コーポレート・ガバナンス体制」を整備し、持続的な企業価値の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制



機関設計

取締役会

当社グループの取締役会は、各事業部門や技術部門、管理部門の分野に精通した業務執行取締役と企業経営に必要な多様な専門性を有する社外取締役で構成しています。取締役会において実効性のある議論を活発に行うため、独立社外取締役3名を含む取締役8名で構成し、当社グループの経営戦略や経営計画等の重要テーマについて、全取締役が自由闊達な意見交換を行っています。

(社外取締役)

「社外取締役の独立性に関する基準」を定め、経歴や当社グループとの関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で職務を遂行できる独立社外取締役を選任しています。取締役会に出席し、取締役としての役割・責務を果たすとともに、グループ会社の経営会議等の業務執行会議にも可能な限り出席し、独立性の観点から意見交換を行う等、幅広く活動しています。

(取締役会の実効性評価)

「取締役会全体が適切に機能しているか」を毎年チェックしています。2016年3月期から取締役会の実効性評価を開始し、その評価結果を当社のホームページに開示しています。

監査等委員会

会社法上の機関設計として監査等委員会設置会社を採用し、独立社外取締役を3名選任しています。これにより、取締役会に対する監督機能を強化するとともに、業務執行取締役に対して重要な業務執行の決定を委任して意思決定の迅速化を実現し、経営の効率性を高めています。

指名・報酬委員会

取締役会の諮問機関として、2名の独立社外取締役を含む3名で構成される「指名委員会」および「報酬委員会」を設置しています。取締役や主要な経営陣候補者の指名・解任や、取締役の報酬額の決定について、透明性、公平性、客観性を確保することで、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を目指しています。

グループ事業執行会議

業務執行取締役委任された重要な事項については、「グループ事業執行会議」において、審議し決定します。その他の業務執行に関わる事項については、グループ主要会社経営会議および事業セグメント経営会議において、審議し決定します。

コーポレートガバナンス・コードの対応

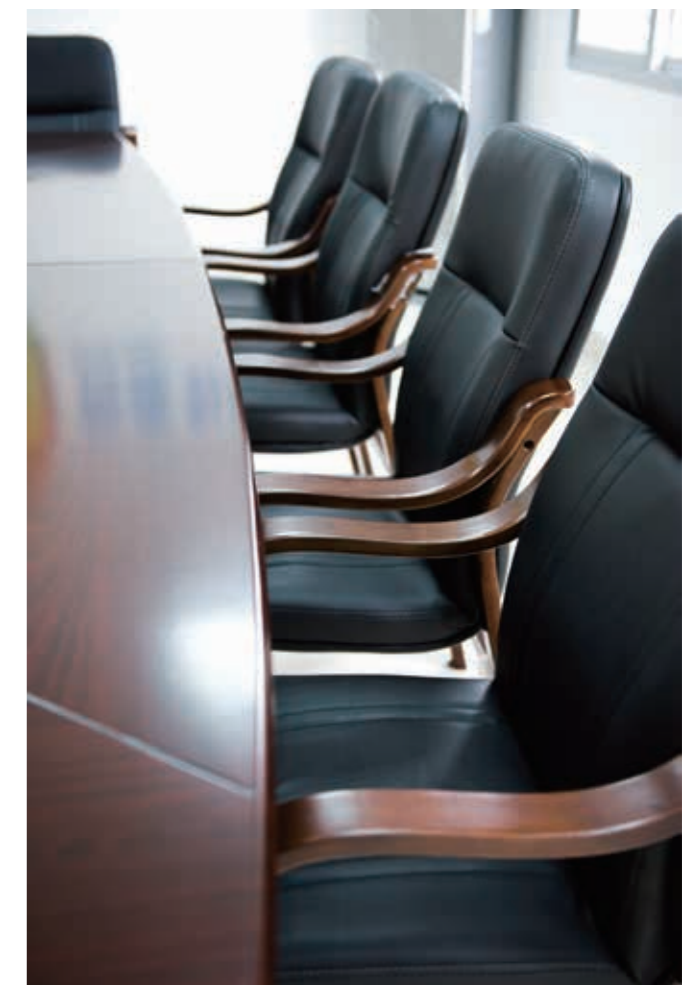
当社グループは、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」の各原則のすべてを実施しています。なお、東京証券取引所に提出した78項目にわたる実施状況表を当社ホームページにて開示しています。

また「アサヒホールディングス コーポレート・ガバナンス基本方針」を制定し、各項目を実行することによりコーポレート・ガバナンスの継続的な充実を図っています。

内部統制システムの整備

取締役会内に独立社外取締役3名を含む監査等委員会を設置し、監査部門、内部統制部門と協力して内部統制の強化を図っています。

監査部門は、業務の妥当性や有効性および法規制・社内ルールの遵守状況等について監査を実施し、各部署に助言・勧告を行うとともに経営層に速やかに報告しています。また、各部門の担当者が、年間計画に基づく内部監査を行い、内部統制推進会議等で報告を行っています。



リスクマネジメント

企業活動上に顕在・潜在するさまざまなリスクを適切に管理するために、総合的な視点でリスクを把握し、評価および対策を実施しています。リスクマネジメントを推進することで、リスクの発生を未然に防止するとともに、危機に発展した場合の損失を最小限に留めるよう努めています。

コンプライアンス

コンプライアンスは公正な企業活動を実現するための重要課題であると位置づけており、法令遵守および企業倫理の徹底に取り組んでいます。とりわけ、廃棄物の適正処理に関わる事業は環境関連法令や行政の許認可に基づいており、従業員一人ひとりが常に高い遵法精神をもって行動することが求められます。コンプライアンスに関する規程やマニュアルを整備するとともに、社員教育や社員コミュニケーションの場において一人ひとりの遵法意識の向上に徹底して取り組んでいます。

事業継続マネジメント(BCM)

大規模災害などのさまざまな要因によって当社グループの事業継続に必要な機能が低下するリスクがあります。当社グループでは、被害があった場合も早期に機能復旧を目指すためのアクションプランとして事業継続計画(BCP)を策定し、BCPや事業継続に関する取り組みを継続的に改善するための仕組みである事業継続マネジメント(BCM)の活動を行っています。

内部通報制度(アサヒホットライン)

社内で違法・不当な行為を発見した時など、国内外のグループ会社全従業員からの通報を直接受け付け、その適切な問題解決を図るため、「アサヒホットライン」を設けています。社内の窓口に加え、社外の法律事務所も窓口とし、匿名での通報も受け付けています。通報案件に関しては、通報者や被通報者の人権やプライバシー保護に配慮した上で調査を行い、是正措置を講じます。

情報セキュリティ

従業員が使用しているパソコンやタブレット端末には最新のセキュリティ対策が施されており、万一端末の紛失や盗難にあった場合でも、リモート操作により情報削除を行うなどの手法で情報漏えいの可能性を限りなくゼロに近づけています。

役員紹介



寺山 満春

Profile
1964年 3月 東京大学経済学部卒業
1964年 4月 (株)クラレ入社
1973年 7月 アサヒブリテック(株)入社
1981年 5月 アサヒブリテック(株)代表取締役社長
2009年 4月 当社代表取締役社長
2011年 4月 アサヒブリテック(株)取締役会長
2014年 6月 当社代表取締役会長兼社長
2018年 4月 当社代表取締役会長(現任)



東浦 知哉

Profile
1984年 3月 大阪大学人間科学部卒業
1984年 4月 日本電気(株)入社
2001年 2月 アサヒブリテック(株)入社
2006年 6月 アサヒブリテック(株)取締役
2011年 4月 当社取締役
2014年 6月 アサヒブリテック(株)代表取締役社長
2017年 4月 アサヒアメリカホールディングス(株)代表取締役社長(現任)
2018年 4月 アサヒブリテック(株)取締役(現任)
2018年 4月 当社代表取締役社長(現任)



小島 周

Profile
1992年 3月 慶應義塾大学商学部卒業
1992年 4月 日商岩井(株)入社
2009年 6月 ウェールズ大学経営大学院(MBA)修了
2011年 3月 アサヒブリテック(株)入社
2012年 4月 当社経理部長(現任)
2013年 1月 米国公認会計士(ワシントン州)登録
2017年 6月 当社取締役(現任)
2018年 4月 アサヒアメリカホールディングス(株)取締役(現任)



中西 広幸

Profile
1986年 3月 阪南大学商学部卒業
1986年 4月 アサヒブリテック(株)入社
2009年 6月 アサヒブリテック(株)執行役員
2013年 4月 ジャパンウェイスト(株)取締役
2016年 6月 (株)フジ医療器代表取締役社長
2018年 4月 アサヒブリテック(株)代表取締役社長(現任)
2018年 6月 当社取締役(現任)

監査等委員である取締役



木村 祐二

Profile
1978年 3月 東京大学理学部卒業
1979年 4月 環境庁入庁
2006年 7月 環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長
2010年 8月 新エネルギー・産業技術総合開発機構京都メカニズム事業推進部長
2012年 7月 財務省函館税関長
2014年10月 公益財団法人地球環境センター常務理事東京事務所長(現任)
2017年 6月 当社社外取締役(監査等委員)／(現任)



金澤 恭子

Profile
1988年 9月 英国ケント大学大学院修了
1989年 3月 学習院大学法学部卒業
1989年 4月 (株)富士総合研究所入社
2000年 4月 弁護士登録／畑法律事務所入所(現在に至る)
2017年 6月 当社社外取締役(監査等委員)／(現任)



武内 義勝

Profile
1978年 3月 神戸大学法学部卒業
1978年 4月 (株)兵庫相互銀行入行
1999年 4月 アサヒブリテック(株)入社
2001年 6月 アサヒブリテック(株)取締役
2008年 5月 ジャパンウェイスト(株)代表取締役社長
2009年 4月 当社取締役
2018年 4月 ジャパンウェイスト(株)取締役会長
2018年 4月 アサヒライフ&ヘルス(株)取締役会長
2019年 6月 当社取締役(監査等委員)／(現任)



原 良憲

Profile
1983年 3月 東京大学大学院工学系研究科(修士課程)修了
1983年 4月 日本電気(株)入社
1990年 8月 スタンフォード大学客員研究員
2004年 7月 NEC関西研究所統括
2006年 4月 京都大学経営管理大学院 教授(現任)
2018年 4月 京都大学経営管理大学院 院長(現任)
2019年 6月 当社社外取締役(監査等委員)／(現任)

(2019年6月18日現在)



アサヒホールディングスの環境貢献

わたしたちは事業活動を通じて地球環境に貢献する循環を生み出しています。

SDGs重点テーマ

貴金属リサイクルの拡大

貴金属リサイクルによって節約された「貴金属鉱石量」を重要な指標と定め、グローバルに拡大・推進します。



貴金属鉱石の節約

リサイクル原材料や各種廃棄物の再資源化により、天然資源（貴金属・非鉄金属鉱石、蠟石、珪石、森林、化石燃料など）の採掘や伐採を削減し、地球環境の保全に貢献しています。



貴金属鉱石
163万 t/年

貴金属を含む原材料をリサイクルし、貴金属鉱石などの鉱物資源を節約しています。
※集計対象は国内

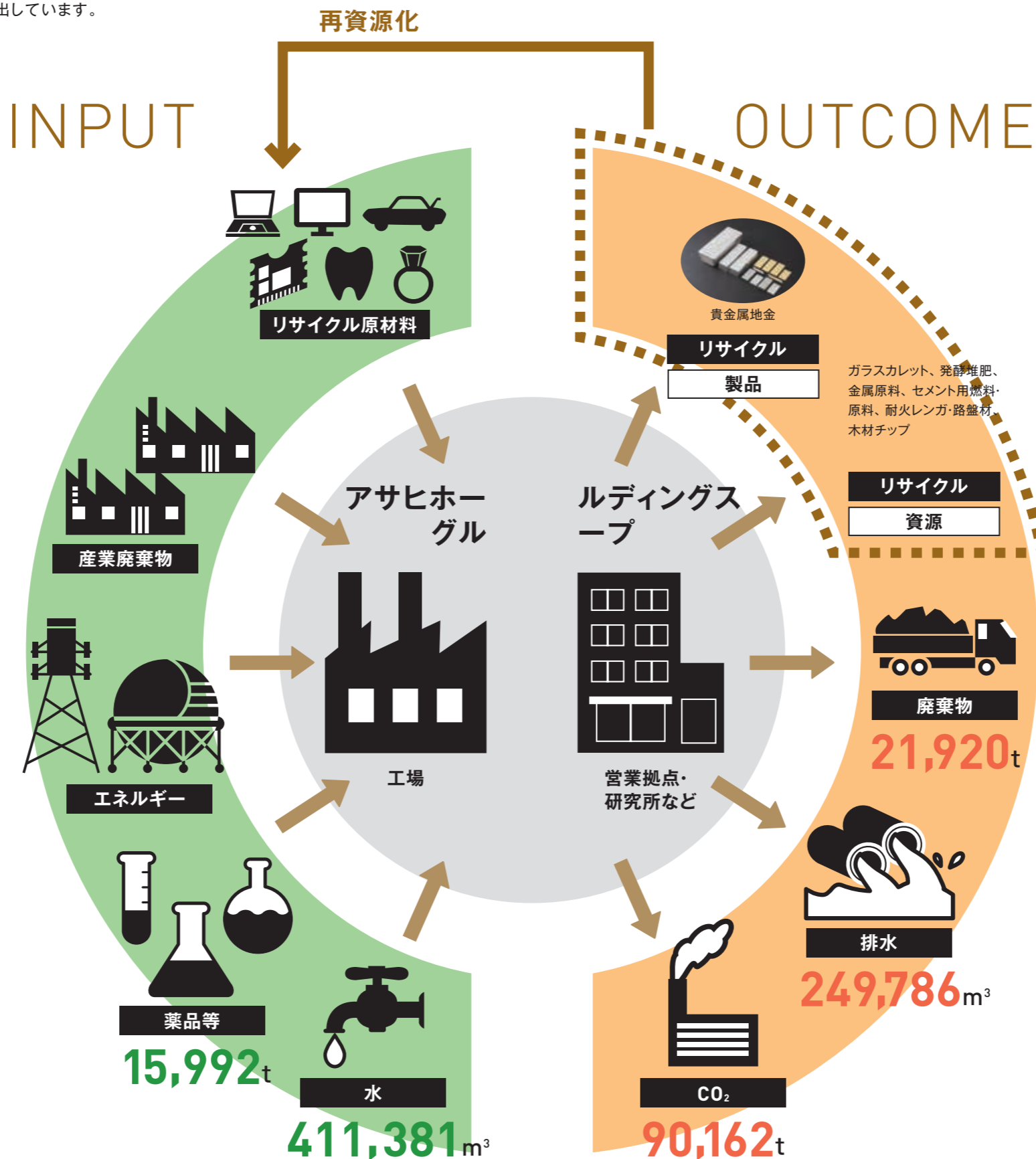


163万トン は 東京都のごみ埋立処分量の約3年分に相当

各種エネルギー

◆電力	◆重油
4,450 万kWh/年 ↓	878 kL/年 ↓
◆灯油	◆軽油
458 kL/年 ↑	3,583 kL/年 ↓
◆ガソリン	◆都市ガス
1,630 kL/年 ↓	326 万m ³ /年 ↑
◆LPG	
21 t/年 ↑	

↑ 前年比アップ
↓ 前年比ダウン
数値はいずれも2018年度実績以降も同様



SDGs重点テーマ

廃棄物リサイクルの拡大

廃棄物の「リサイクル率(再資源化率)」を重要な指標として定め、廃棄物リサイクルの拡大に努めます。



リサイクル率(再資源化率) 76.2%

◆ガラスカレット (瓶、廃板ガラス)	◆発酵堆肥 (食品廃棄物、有機汚泥)
89,679 t/年	12,451 t/年
◆金属原料 (建築廃材、金属含有廃液)	◆セメント用燃料・原料 (廃プラスチック、汚泥)
8,457 t/年	49,171 t/年
◆耐火レンガ・路盤材 (炉廃材)	◆木材チップ (建築廃材)
4,002 t/年	23,785 t/年

※集計対象は当社および国内グループ会社

SDGs重点テーマ

CO₂排出量の削減

グループ全体で2030年度までにCO₂排出量マイナス26%(2015年度比)を目指します。



CO₂排出量



2015年度比
11%削減

環境マネジメント

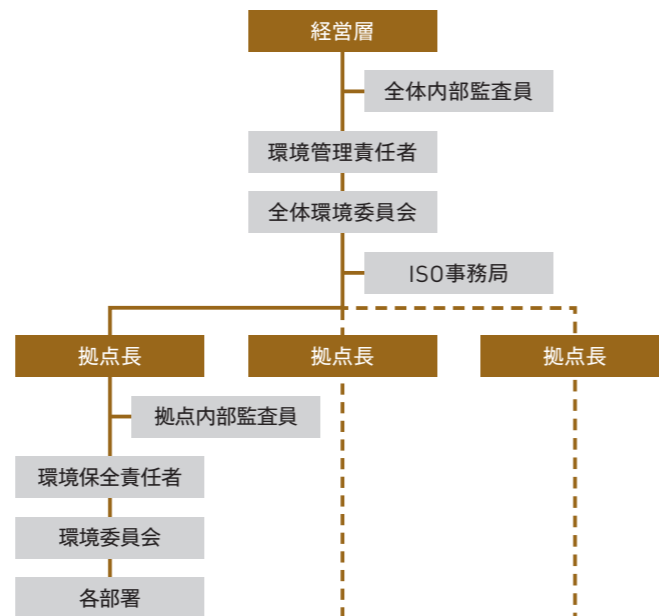
ISO14001認証取得状況

2018年8月に関係会社を含む国内事業所のISO14001認証を統合し、6社32拠点で認証取得しています。今後も事業との一体化をキーワードとして、維持管理および改善活動に注力していきます。



ISO14001登録証

ISO14001統合認証取得拠点運営体制



環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「全社環境目標(年間計画)」を策定します。これを受け、ISO14001認証を取得している国内事業所では、「拠点環境目標(年間計画)」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の遵守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム(EMS)はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。

従業員による環境保全活動 各地域で清掃活動等に積極的に参加しています。



【沖縄・海岸清掃】



【福岡・道路清掃】



【仙台・道路清掃】

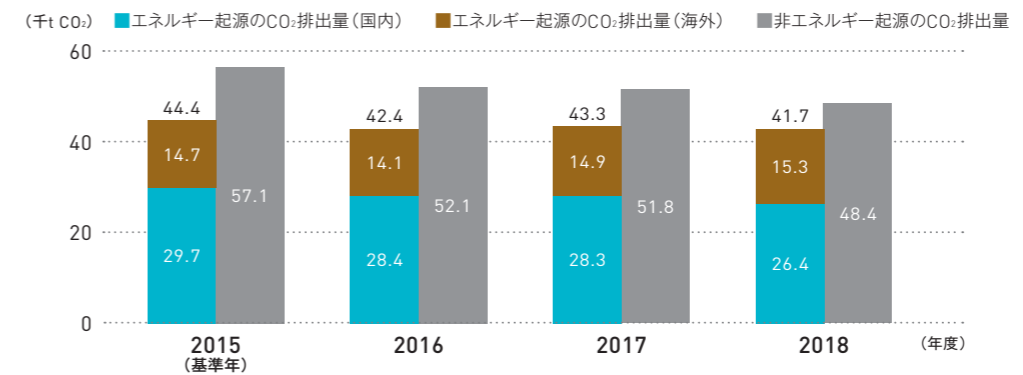
地球温暖化防止への取り組み

SDGs重点テーマ

CO₂排出量の削減



CO₂排出量の推移



グループにおける2018年度の全CO₂排出量は、2015年度比で約11%削減となりました。エネルギー起源のCO₂排出量は、海外では2015年度より微増となったものの、国内は各拠点で省エネ活動に努めたこと、契約電力会社のCO₂換算係数が下がったことなどにより低減し、全体として約6%削減しました。また、産業廃棄物焼却時に発生する非エネルギー起源の排出量も、焼却量の減少などにより約15%削減となりました。

当社グループでは、SDGs重点テーマの一つとしてCO₂排出量を2030年度までに2015年度比で26%削減することを目標に取り組んでいます。当社グループにおけるエネルギー起源のCO₂排出要因は、国内では主にオフィスでの電力消費、工場での電力・燃料消費、営業車両等の燃料消費、海外では工場およびオフィスの電力・燃料消費で、非エネルギー起源のCO₂排出は産業廃棄物の焼却によるものです。当社では特にエネルギー起源のCO₂排出に着目し、廃棄物発電の導入、空調・照明や車両の省エネ化、電力会社の見直しなどさまざまな対策を進めることによって、目標達成を目指します。

<データの収集範囲>

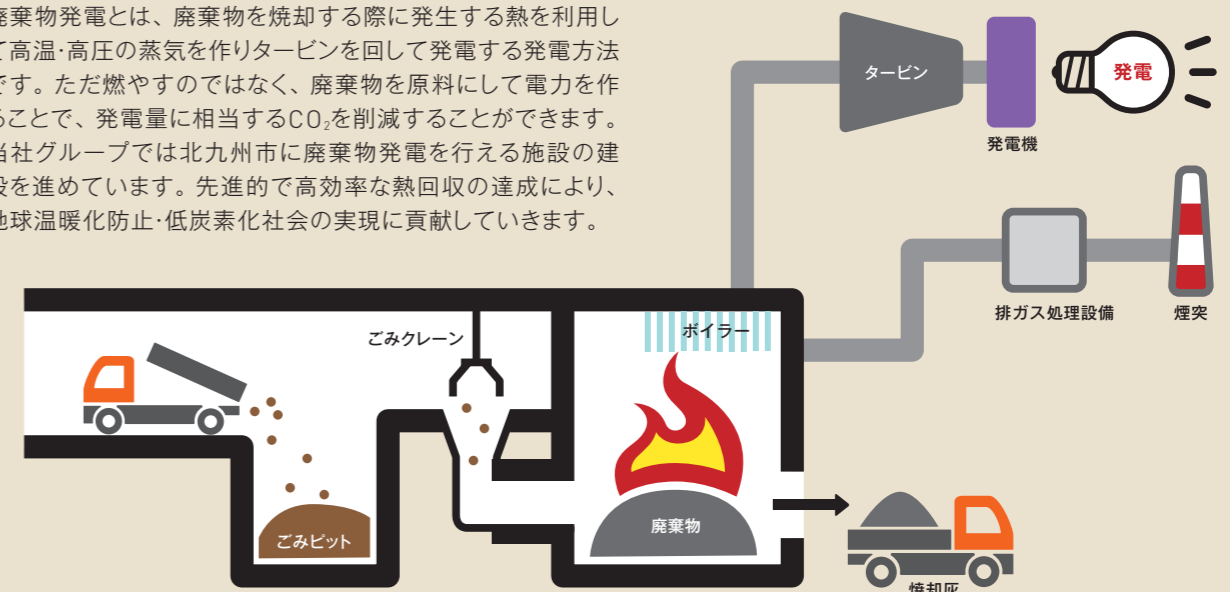
アサヒホールディングス、国内グループ会社、海外グループ会社(集計期間4月-3月)

<集計方法>

[エネルギー起源] 各拠点における電力使用量、燃料使用量に基づき算出(国内排出量は、温対法および省エネ法に準拠)
[非エネルギー起源] 産業廃棄物の焼却量に基づき算出

廃棄物発電の導入

廃棄物発電とは、廃棄物を焼却する際に発生する熱を利用して高温・高圧の蒸気を作りタービンを回して発電する発電方法です。ただ燃やすのではなく、廃棄物を原料にして電力を作ることによって、発電量に相当するCO₂を削減することができます。当社グループでは北九州市に廃棄物発電を行える施設の建設を進めています。先進的で高効率な熱回収の達成により、地球温暖化防止・低炭素化社会の実現に貢献していきます。



健康経営・ワークライフバランス

わたしたちは、従業員一人ひとりが心身ともに健康であることを経営課題の一つとして捉える「健康経営」を推進しています。また、やりがいのある仕事と充実した私生活とのバランスをとりながら、個人が持つ能力を最大限に発揮して人生を送ることも大切だと考えています。「健康に」「安心して」働ける職場づくりのためにさまざまな取り組みを行っています。

アサヒホールディングス健康宣言

アサヒホールディングスグループは、従業員一人ひとりの心身の健康こそが企業の財産であると認識し、健康で生産性高く働ける職場の実現に取り組むことで企業価値の向上につとめてまいります。

代表取締役会長 寺山 満春

主要施策

- 法定を上回る充実した健康診断制度を実施し、心身の健康管理の徹底を促します
- 従業員が自らの健康の重要性を理解し、自立的に健康維持増進を心がけるよう奨励・支援します
- ワークライフバランスの充実を目指し、働き方改革を推進します

法定を上回る充実した健康診断制度

35歳以上の従業員には胃の内視鏡検査を推奨し、40歳以上の従業員は脳MRI・MRA検査やPET検査を定期的実施しています。さらに再検査が必要な場合は、検査費用の補助を行っています。健診受診率は100%を維持し、診断結果については経年で把握可能なシステムを新たに導入し、会社と従業員双方が健康増進、疾病の予防と早期発見に取り組んでいます。

メンタルヘルスケア

従業員の生産性や活力の向上には心の健康が不可欠です。メンタルヘルス専門の産業医と連携し、個別相談会や予防セミナーを実施しています。また、50名未満の事業所も含めた全拠点で全従業員を対象にストレスチェックを実施しています。

フレキシブル勤務制度

所定労働時間を業務の繁閑に応じて調整できる勤務(変形労働時間制)をフレキシブル勤務制度として実施しています。通院などの健康維持や、育児・介護、家族行事への参加などプライベートの充実を図ることを目的に勤務形態の弾力化を進めています。また、ITの導入や業務の効率化などにより、労働時間の適正化をさらに進めています。

安全な職場づくり

ドライブレコーダーによる安全管理

営業車にはドライブレコーダーを搭載し、危険運転(急ブレーキ、急アクセル、急ハンドル)を感知した際の警告や映像データの記録などを行っています。得られたデータは営業員の運転評価にも活かされ、一人ひとりの安全運転への意識を高め自動車事故の抑制に努めています。

SDGs重点テーマ インターバル勤務制度・深夜残業ゼロの徹底

従業員の健康確保のために、勤務終了から翌日の勤務開始までの時間を11時間以上とするインターバル勤務制度を導入しています。システムを利用した達成状況の確認などを行い、100%実施を目標に取り組んでいます。また、交替勤務者を除き、22時から翌5時までの深夜時間帯の業務はゼロとなるよう徹底しています。

SDGs重点テーマ リフレッシュホリデー

心身のリフレッシュを図り、メリハリのある働き方を実現するために、リフレッシュホリデー制度を就業規則で定めています。3日間の休暇取得を原則とし、連続5日間の休暇を取得することができる制度です。グループ全従業員を対象とし、取得率100%を目標にしています。



労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の取り組み

労働災害を減少させるためには、職場に潜在する無数のリスクを事前に減らす必要があります。当社では、リスクマネジメントをシステム化したOSHMSの考え方を取り入れ、安全管理の一連の過程を定めて継続的な安全衛生管理を行い、職場の安全衛生水準向上を目指しています。

ダイバーシティ・インクルージョン

性別や国籍にかかわらず多様な人材が生き生きと活躍できる職場づくりを目指しています。従業員一人ひとりが持つ強みを最大限に引き出し仕事に活かせるよう、また自分の仕事に「やりがい」「働きがい」を持って取り組めるように、さまざまなサポートを行っています。

両立支援

出産や育児、家族の介護など、仕事以外の時間確保が必要な従業員にとって働きやすい環境づくりに取り組んでいます。育児後の短時間勤務は「小学校卒業まで」取得可能で、法定以上の制度になっています。法定の制度についても円滑に取得できる体制を整備し、それぞれの従業員のライフスタイルに合わせた働き方をサポートしています。

SDGs重点テーマ 障がい者雇用

障がいのある方も能力や経験を活かして仕事に参画できるよう、やりがい・働きがいをもって取り組める業務の確保や創出に努めています。

SDGs重点テーマ 女性活躍

職場での活躍を望む女性従業員が能力を発揮し働ける会社を目指しています。女性幹部と女性従業員による座談会等を実施し、議論を通じて、働きやすい職場への改善やキャリアに関する意識向上を図っています。

SDGs重点テーマ

人材活躍の基盤充実



働き方改革・健康経営・ダイバーシティ推進等により、多様な人材が活躍できる基盤を充実させて、働きがいの向上に努めます。

【SDGs重点テーマに関する目標】

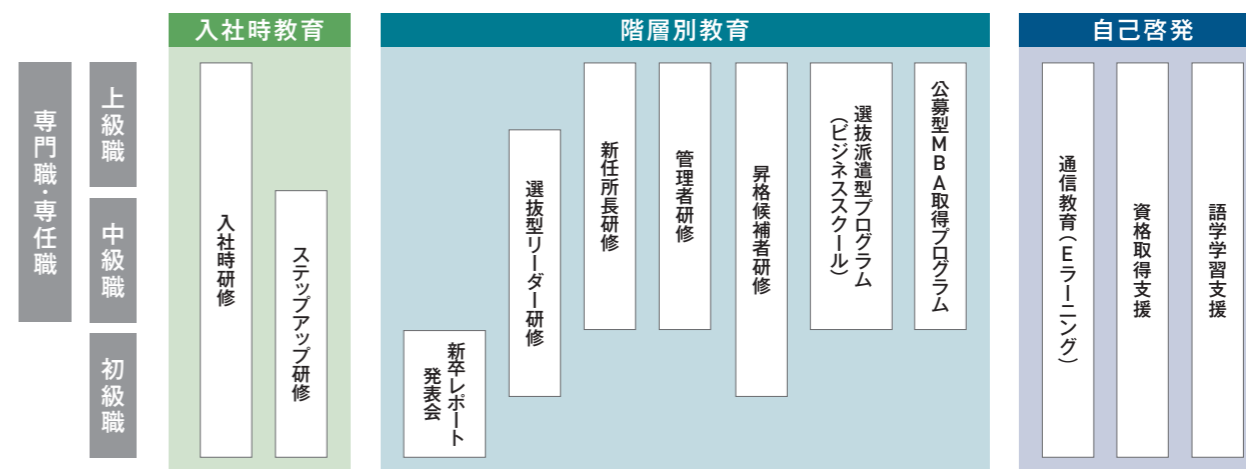
下記の通りSDGs重点テーマの目標を設定し、実現に向けて取り組んでいます。

貢献テーマ	目標
インターバル勤務制度(11時間以上)の徹底	2020年度までに100%
リフレッシュホリデー制度(3日以上)取得率向上	2020年度までに100%
女性従業員に占める管理職比率の向上	2030年度までに男性従業員と同等水準(20%)
障がい者雇用の推進	法定雇用率以上

※国内グループ会社対象

人材育成

社内のいかなる階層・職種にあっても、グローバルに活躍できるプロフェッショナルな人材であることを目指し、独自の資格制度や社内教育カリキュラムを実施しています。さらに、従業員一人ひとりの業績貢献度を公正・公平に評価する成果主義人事制度を核に、チャレンジ精神を持った人材育成に努めています。



ステークホルダーとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとともに

わたしたちは、株主・投資家の皆さまの期待にお応えするために、中期経営計画をはじめとして、当社のビジョンや経営方針等をわかりやすい形で説明し、企業情報を適時・適切に開示しています。また、企業の持続的な成長と価値向上を目指し、株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を積極的に実施しています。

IR活動

年2回、第2四半期決算と年度決算の発表後に経営層による決算説明会を開催しています。加えて、四半期ごとに機関投資家・証券アナリストの皆さまへ経営情報を直接説明する機会として個別面談を実施しています。また、ホームページなどのIRツールや英文開示によって、あらゆるステークホルダーに広く公正な情報開示を行っています。

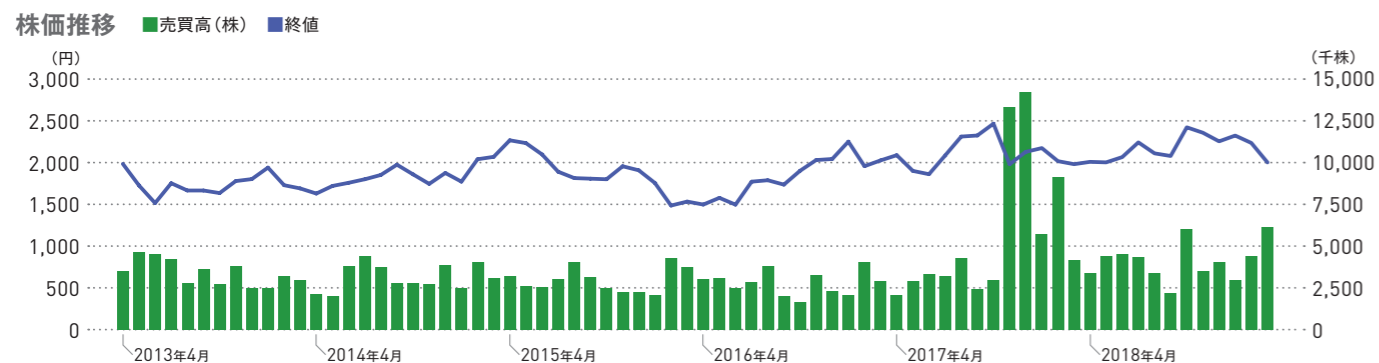
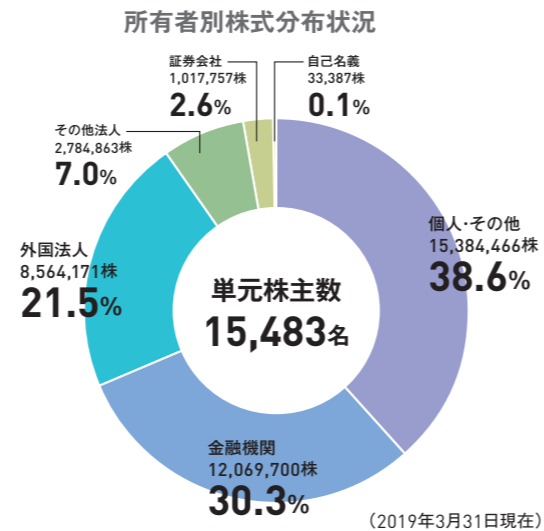
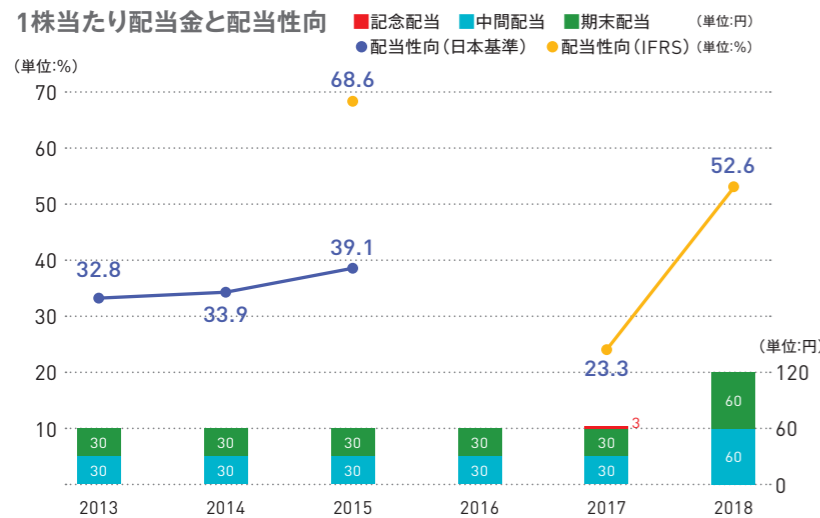
株主総会

毎年6月、定時株主総会を神戸で開催しています。株主の皆さまとのコミュニケーションの場として、株主の皆さまの声に経営層が直接お応えし、当社グループの経営に反映させるとともに、株主の皆さまにわかりやすい運営を目指しています。

[株主還元の基本方針]

当社は、安定した収益力と持続的成長の維持により企業価値の向上を図り、継続的な安定配当等を通して株主の皆さまの期待に応えることを基本方針として掲げています。また、成長分野への投資や新規事業開発に備えるために、内部留保の充実を図ることも重要であると考えています。

上記方針のもと、剰余金の配当につきましても、各事業年度の業績、財務体質の更なる強化、当社グループの経営戦略等を勘案して、連結配当性向50%以上をめどとして行うことを指針としています。



お取引先の皆さまとともに

わたしたちは、「お客さま第一主義」を合言葉に、お取引先の皆さまの幅広いニーズにきめ細かく対応できるよう努めてまいります。

公正取引に関する取り組み

当社グループは、アサヒウェイの「アサヒホールディングスグループ 10の規則」において、「公平な競争を阻害する行為の禁止」「お取引先の情報や技術等の機密保持」「不適切な利益授受の禁止」などを定め、公正取引や企業倫理の遵守を徹底しています。

品質保証体制

アサヒプリテック(株)では品質保証部門が中心となり、営業部門、技術開発部門、製品製造部門が連携を行って、お客さまの声や市場の動向などを共有化し、お客さま満足度の向上に取り組んでいます。また、お客さまにより安心・満足していただける製品を提供するためにISO9001を取得し、品質マネジメントシステムの継続的改善・品質の維持向上に努めています。

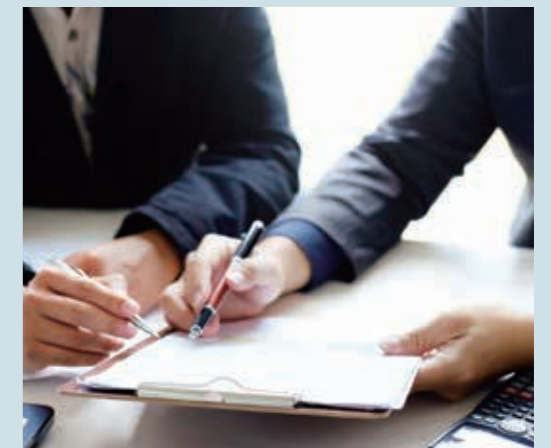
健康関連機器や電気機器を扱う(株)フジ医療器と(株)インターセントラルでは、薬機法やJET(一般社団法人電気安全環境研究所)の認証取得を行い製造するとともに海外向け製品においてはRoHS指令などの規制に対応するなど、それぞれの事業に適合した品質の継続的改善に取り組んでいます。

調達に関する取り組み

アサヒプリテック(株)では、貴金属リサイクルや環境保全事業において使用する薬品や各種消耗品などの副資材の調達に関して「CSR調達方針」を策定しています。

CSR調達方針

- ①環境保全 ②品質管理 ③公正取引
 - ④情報セキュリティ ⑤危機管理 ⑥社会的責任
 - ⑦人権への配慮と労働安全衛生
- の7つの観点を重視した調達活動に取り組んでいます。お取引先の皆さまとの信頼関係に基づく取引を推進し、当社とお取引先の皆さまの双方が企業価値を向上させることを目指しています。



地域社会の皆さまとともに

全国各地で事業活動を展開する当社グループにとって、地域社会の皆さまのご理解とご支援は必要不可欠です。企業市民として地域社会と共生する企業であり続けるために、わたしたちはさまざまな形で地域や環境に根ざした社会貢献活動を行っています。企業市民としての責任を果たすと同時に、より健全な社会の発展に向けて、積極的に貢献していきたいと考えています。

社会貢献活動への参画

当社は、日本財団と日本歯科医師会の協力により推進されている「TOOTH FAIRY(歯の妖精)」プロジェクトへ協力企業として参画しています。歯科医院で治療の役割を終えた貴金属のリサイクル活動による支援を行い、リサイクルされた金、パラジウムなどの貴金属の売却を通じて得られた利益は各団体の活動資金として役立てられています。

また、特定非営利団体のメドゥサン・デュ・モンドジャポンや日本口唇口蓋裂協会等のボランティア団体が実施している医療支援活動の趣旨に賛同し、活動支援を行っています。



従業員とともに

当社グループは、従業員一人ひとりがさまざまな社会的課題に広く関心を持ち、自発的に社会に貢献する環境を創出するため、従業員による社会貢献活動を積極的に支援しています。また、小集団活動を通じて生産性向上などに取り組み、働きがいのある職場形成を推進しています。

アサヒホールディングスSDGs活動

アサヒホールディングスSDGs活動とは、業務とは別に従業員が一人ひとりが自発的に、SDGsの目標に貢献する活動です。2018年から2020年までの3年間に特に優秀な活動をした個人・グループを表彰する「アサヒホールディングスSDGs大賞」を創設し、従業員一人ひとりが世界的目標であるSDGsを理解、実践することを、私たちは会社として奨励・支援していきます。

ASG活動 (Asahi Small Group活動)

同一職場内の従業員による自発的・主体的な参加のもと、ASG活動という小集団活動を行っています。活動を通して創意工夫を行い、職場内の問題解決を図っています。優れた取り組みを行ったグループには社員総会で表彰を行っています。

重点テーマ

SDGs活動の奨励・支援

個人・グループによるボランティア活動等、従業員が一人ひとりがSDGsに貢献する活動を奨励・支援します。



2018年度のSDGs活動紹介



【災害ボランティア】

2018年は全国的に多くの自然災害に見舞われました。豪雨災害復興ボランティアとして、有志の従業員らが広島・岡山等の被災地で家族や友人とともに活動に当たりました。



【阪神地区・海浜公園清掃】

1988年以降毎年、海浜公園の清掃活動に参加しています。家族ぐるみで参加する従業員も多く、2018年度はグループ会社も含め、49名の従業員と家族が参加し、過去最多となりました。

グループ会社体系図

アサヒホールディングス(株)

アサヒブリテック(株)

貴金属事業(貴金属リサイクル事業)
※アサヒブリテックは環境保全事業も一部行っています

ASAHI G&S SDN. BHD.

韓国アサヒブリテック(株)

ジャパンウェイスト(株)

環境保全事業

JWケミテック(株)

日本ケミテックロジテム(株)

JWガラスリサイクル(株)

(株)太陽化学

富士炉材(株)

アサヒライフ&ヘルス(株)

ライフ&ヘルス事業

(株)フジ医療器

Fujiiryoki, Inc.

(株)インターセントラル

紘永工業(株)

アサヒアメリカホールディングス(株)

貴金属事業(北米精錬事業)

Asahi Refining USA Inc.

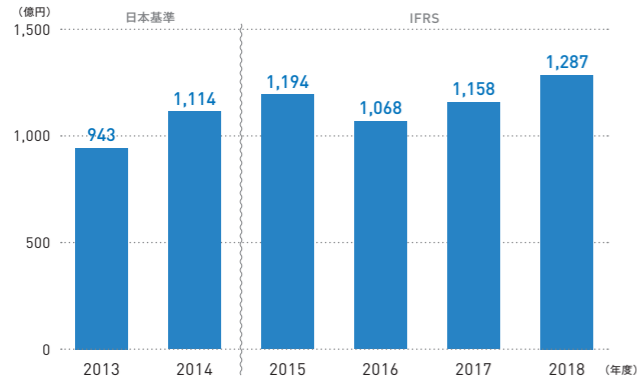
Asahi Refining Canada Ltd.

Asahi Refining Florida Inc.

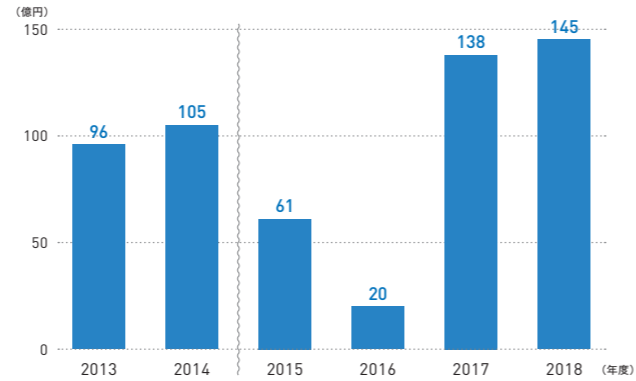
(2019年4月1日現在)

財務・非財務ハイライト

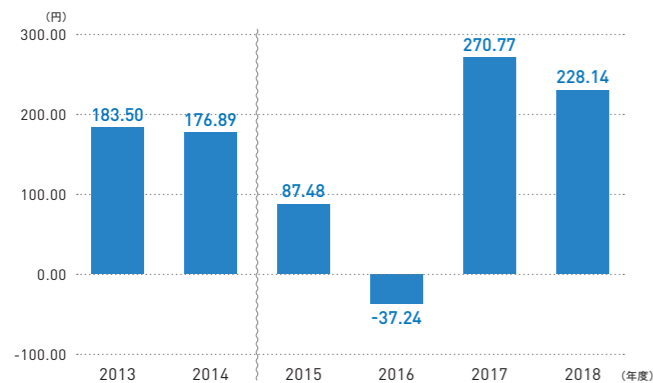
売上収益 1,287億円 (前年度比 +11.1%)



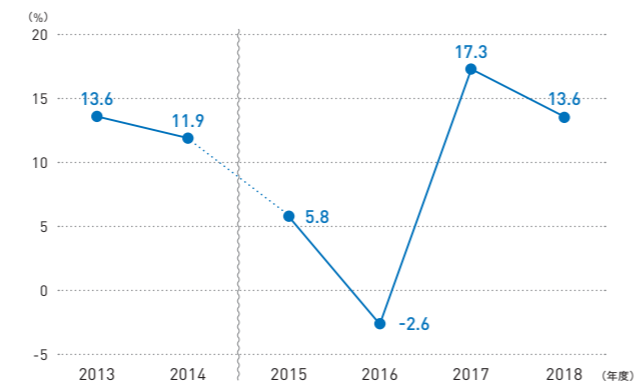
営業利益 145億円 (前年度比 +5.0%)



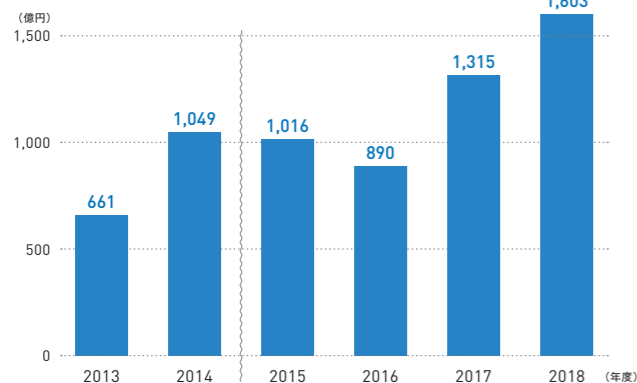
EPS 228.14円



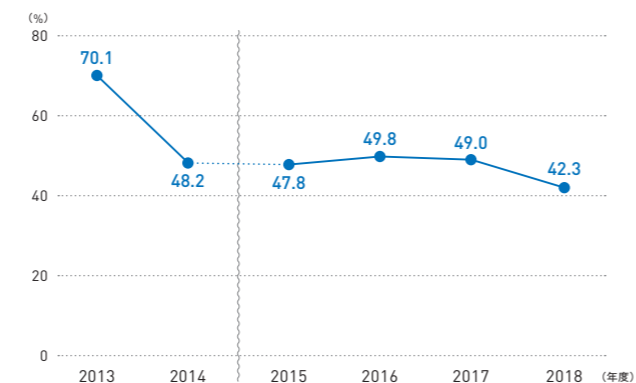
ROE 13.6%



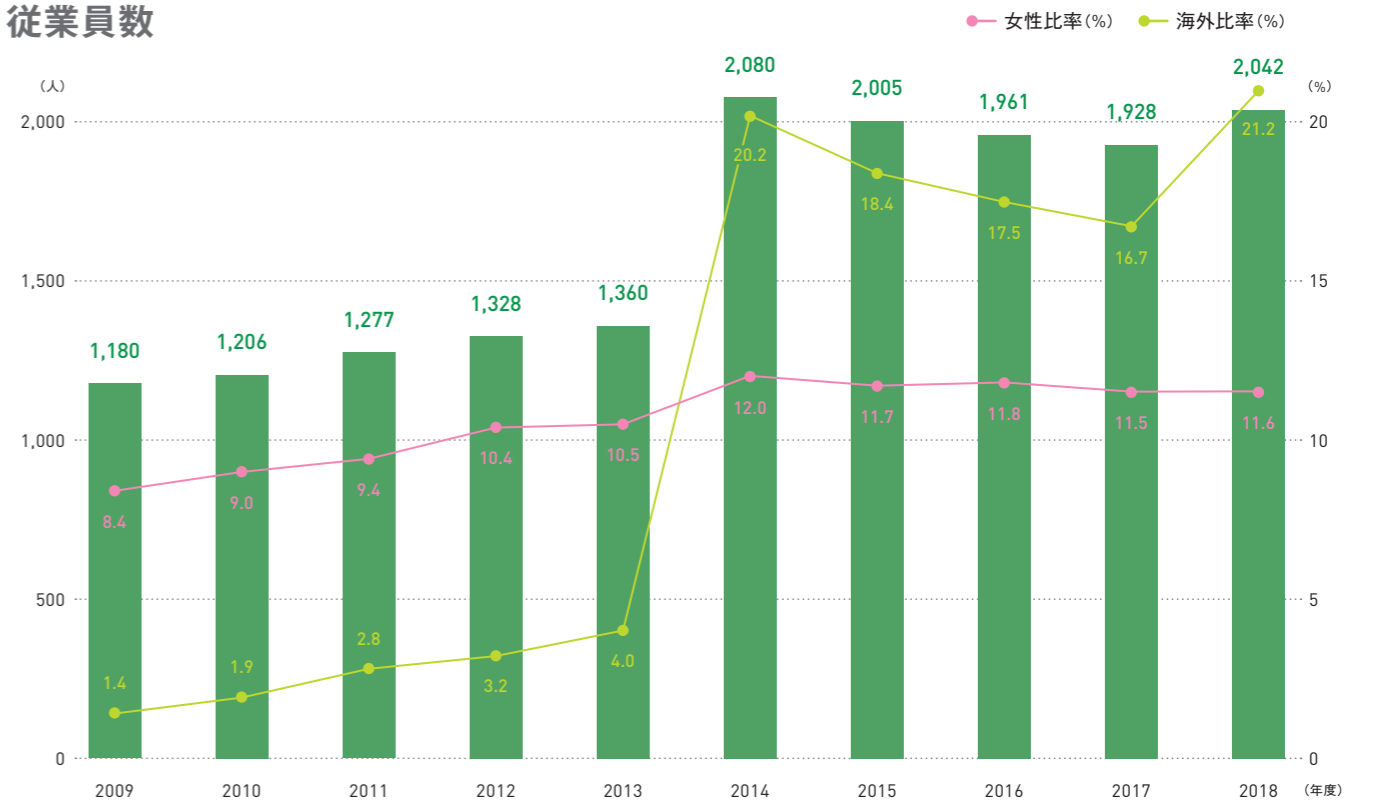
資産合計 1,603億円



自己資本比率 42.3%



従業員数



基本データ	単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
従業員数	人	1,180	1,206	1,277	1,328	1,360	2,080	2,005	1,961	1,928	2,042
女性比率	%	8.4	9.0	9.4	10.4	10.5	12.0	11.7	11.8	11.5	11.6
海外比率	%	1.4	1.9	2.8	3.2	4.0	20.2	18.4	17.5	16.7	21.2
環境データ	単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
電力消費量 ^{※2}	千kWh	21,674	24,097	23,816	22,669	22,963	23,292	47,522	46,354	45,542	44,509
CO ₂ 排出量 ^{※2※3}	t	73,124	75,322	71,302	77,755	83,939	91,494	101,540	94,540	95,034	90,162

	単位	2009	2010	2011	2012	2013	日本基準 [←] 2014	→IFRS 2015	2016	2017	2018
売上収益	億円	826	1,105	1,511	964	943	1,114	1,194	1,068	1,158	1,287
営業利益	億円	79	107	112	75	96	105	61	20	138	145
利益率	%	9.6	9.7	7.4	7.8	10.2	9.4	5.1	1.9	11.9	11.3
当期利益 ^{※1}	億円	44	61	59	45	60	58	29	-12	94	90
EPS	円	135.90	190.46	183.20	139.24	183.50	176.89	87.48	-37.24	270.77	228.14
ROE	%	15.4	19.1	16.2	11.2	13.6	11.9	5.8	-2.6	17.3	13.6
資産合計	億円	501	591	583	623	661	1,049	1,016	890	1,315	1,603
自己資本比率	%	59.6	58.0	66.6	67.3	70.1	48.2	47.8	49.8	49.0	42.3

国内拠点 **69** 拠点
海外拠点 **10** 拠点

研究開発費 **4.5** 億円

リフレッシュホリデー取得率^{※4} **88.2** %

設備投資額 **57.1** 億円

(2018年度)

※1 2015年度以降は、「親会社の所有者に帰属する当期利益」
 ※2 2015年度以降の集計範囲は海外子会社を含む全グループ会社
 ※3 集計の方針および基準は、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」「地球温暖化対策の推進に関する法律」に準拠。排出係数は各排出事業者ごとの排出係数を採用。海外の場合は、各国で定められた排出係数を採用。
 ※4 集計範囲は国内主要会社(アサヒホールディングス、アサヒブリック、ジャパンウエスト)

アサヒホールディングス株式会社

印刷に当たっての環境配慮について

- 用紙 適切に管理された森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用しています。
- インキ 揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用しています。
- 印刷 アルカリ性現像廃液やイソプロピルアルコールなどを含む「湿し水」を使わない「水なし印刷方式」を採用しています。

